

鳥取県がん検診実績報告書

令和3年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

鳥取県がん検診実績報告書

はじめに

新型コロナウイルス感染症の蔓延は社会の隅々にまで影響を及ぼしていますが、がん検診の受診率も低迷を余儀なくされました。令和2年春には緊急事態宣言が発令されたこともあり、年度当初は、がん検診の実施がかなり危ぶまれました。幸い、鳥取県内の感染状況は他県に比べ落ち着いていたこともあり、大半の市町村ではおおむね例年通りの検診内容を実施することができました。しかし、集団検診、施設検診とも感染症対策を十分に行いながらの検診であり、受診者には多少の制限がかかる場面もあったかと思われ、さらに、受診される住民の間にも、一定の受診控えがあったものと想像されます。

また、国立がんセンターが公表した鳥取県の令和元年度がんの75歳未満年齢調整死亡率では人口10万人対79.7と前年の72.2を上回っており、年度ごとの変動はあるものの全国値の70.0に比して高く推移しております。鳥取県においては依然がん死亡率が高い状態が続いております。発見がんの早期がん比率は徐々に高くなってきておりますが、受診率が下がれば一定数の進行がんの診断機会を失うこととなります。新型コロナウイルスへの感染予防が重要であることは論を待ちませんが、コロナ禍に振り回されたこの一年の間にも、死因のトップはがんであり続けています。令和2年度に受診機会を逃してしまわれた方にも、しっかりと令和3年度に受診勧奨していくことが求められています。

このたび、例年通り、令和元年度の「鳥取県がん検診実績報告書」を発行いたします。当県におけるがん検診の更なる充実に向けてご活用いただければ幸いに存じます。

令和3年3月

鳥取県健康対策協議会

会長 渡 辺 憲

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会と生活習慣病検診等管理指導協議会組織図	1
II. 令和元年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	41
5. 大腸がん検診	48
6. 肝臓がん検診	57
7. 全国がん検診実績との比較	70
III. 令和2年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	75
3. 肺がん検診症例研究会報告	77
4. 乳がん検診症例研究会報告	79
5. 大腸がん検診症例研究会報告	81
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	83
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	85
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	86

Ⅱ. 令和元年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務）

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

令和元年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は189,132人のうち、受診者数はX線検査9,649人、内視鏡検査は42,845人で合計52,494人、受診率は27.8%で前年度より0.5ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は81.6%で、年々増加している。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数25,940人、受診率33.8%で、全国平均（平成30年度）受診率3.3%に比較し高い。

検査の結果、胃がんであった者は207人発見され（X線検査14人、内視鏡検査193人）、がん発見率は0.39%であった。

X線検査でのがん発見率は0.15%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.45%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査1.8%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ14.2%であった。

確定調査の結果、確定癌は205例、発見癌率は0.39%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は9,649人で、受診率は5.1%である。一次検診の要精検査者は786人で、要精検査率は8.1%で、前年度より0.5ポイント減少した。精検受診者数679人、精検受診率は86.4%で前年度より2.4ポイント減少した。車検診の要精検査率7.7%、施設検診は12.2%で、令和元年度、西部では東部、中部に比べ、車、施設検診とも高値となり、今後の推移をみながら、改善を図っていくことになった。なお、医療機関での要精検査率；平成29年度は中部、平成30年度は東部で高値を示していた。

精検結果は、胃がんであった者は14人で、胃がん発見率は0.15%であった。

X線検査における国のプロセス指標は、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、例年と同様に施設検診におけるX線検査では要精検査率が高い。

(2) 内視鏡検査は、19市町村で実施され、受診者数は42,845人で、検査結果は胃がんであった者は193人が発見され、発見率は0.45%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,362人で、組織診実施率3.2%、東部3.6%、中部3.7%、西部2.6%である。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は14.2%で、東部10.6%、中部14.1%、西部19.2%であった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	9,649 (18.4%)	14	0.145
内視鏡検診	19	0	42,845 (81.6%)	193	0.450
計			52,494 (100%)	207	0.394

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	8,675 (89.9%)	667	7.7	4.6	9.3	10.9
施設検診 (病院・診療所)	974 (10.1%)	119	12.2	10.9	8.6	14.2
計	9,649 (100%)	786	8.1	5.3	9.3	11.4

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	579	86.8	12	0.138	0.105	0.125	0.203
施設検診	100	84.0	2	0.205	0.000	0.000	0.481
計	679	86.4	14	0.145	0.092	0.123	0.243

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	11,226	452	52	0.463	0.395	0.410	0.665
診 療 所	31,619	910	141	0.446	0.372	0.562	0.462
計	42,845	1,362	193	0.450	0.380	0.517	0.492

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)
東 部	4,337	232	5.3	206	88.8	4	0.092
中 部	2,437	227	9.3	191	84.1	3	0.123
西 部	2,875	327	11.4	282	86.2	7	0.243
計	9,649	786	8.1	679	86.4	14	0.145

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率 (%)	がん	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
東 部	17,626	635	3.6	67	0.380	10.6
中 部	7,349	269	3.7	38	0.517	14.1
西 部	17,870	458	2.6	88	0.492	19.2
計	42,845	1,362	3.2	193	0.450	14.2

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

令和元年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃癌は205例（一次検査がX線検査：専検診17例、一次検査が内視鏡検査：188例）で、癌発見率は0.391%（東部0.328%、中部0.419%、西部0.443%）で、前年度に比べ、癌は50例増、癌発見率は0.1ポイントも増加した。特に西部の癌発見率が高かった。

調査結果は以下のとおりである。

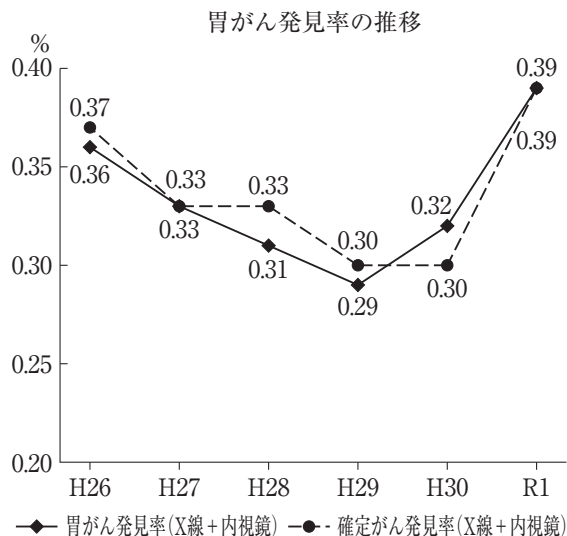
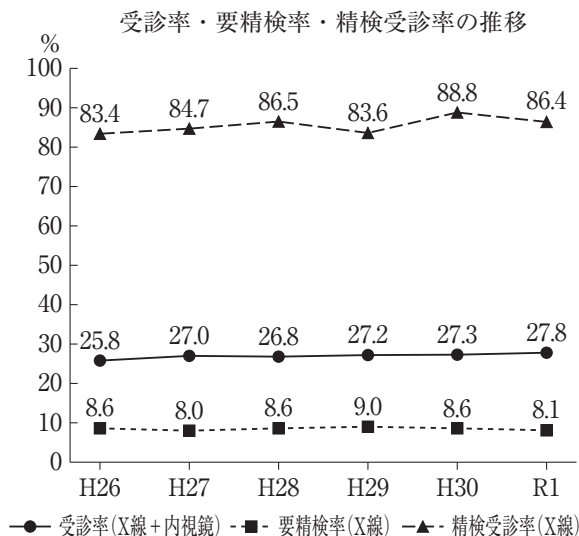
- (1) 早期癌は157例、進行癌は48例であった。早期癌率は76.6%（東部73.6%、中部78.0%、西部78.3%）であった。
- (2) 切除は98例で、内視鏡切除が97例であった。非切除例が10例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性140例、女性65例であった。40歳代3例、50歳代8例、60歳代50例、70歳代89例、80歳以上55例で、例年と同様に60歳代、70歳代の男性が多い。80歳代が増えている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が60%を占めている。進行癌の肉眼分類は「2」が58%を占めている。例年通りの傾向であった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以下のものが52%を占めたが、一方で5cm以上のものが23例認められた。
- (6) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが9例で60.0%、内視鏡検査ではstage I Aが143例で84.12%であった。StageⅣがX線検査で1例、内視鏡検査で6例、それぞれ見つかっている。
- (7) 逐年検診発見進行癌は13例（東部7例、中部1例、西部5例）であった。各地区で症例検討を行っていただき、問題点等について検討していただく。

(1) 胃がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			190,556			190,556			189,132
	受診者数(人) B	13,801	35,404	49,205	13,642	37,828	51,470	11,961	38,684	50,645
	受診率(%) C = B/A	7.2	18.6	25.8	7.2	19.9	27.0	6.3	20.5	26.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	12,620			12,548			10,933		
	要精検者数(人) E	1,181			1,094			1,028		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.6			8.0			8.6		
精密検査	精検受診者数(人) G	985			927			889		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	83.4			84.7			86.5		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	25(3)	153(48)	178(51)	18(1)	153(102)	171(103)	15(6)	144(92)	159(98)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.18	0.43	0.36	0.13	0.40	0.33	0.13	0.37	0.31
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	2.1			1.6			1.5		
確定調査結果	確定がん数(人) L	27	154	181	18	151	169	18	150	168
	確定がん率(%) M = L/B	0.20	0.43	0.37	0.13	0.40	0.33	0.15	0.39	0.33

区 分		平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対象者数(人) A			189,132			189,132			189,132
	受診者数(人) B	11,029	40,453	51,482	10,415	41,196	51,611	9,649	42,845	52,494
	受診率(%) C = B/A	5.8	21.4	27.2	5.5	21.8	27.3	5.1	22.7	27.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	10,036			9,520			8,863		
	要精検者数(人) E	993			895			786		
	要精検率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	9.0			8.6			8.1		
精密検査	精検受診者数(人) G	830			795			679		
	精検受診率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	83.6			88.8			86.4		
精密検査結果	胃がんの者(人) I	15(3)	133(85)	148(88)	15(2)	149(42)	164(44)	14(4)	193(74)	207(78)
	胃がん発見率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.14	0.33	0.29	0.14	0.36	0.32	0.15	0.45	0.39
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.5			1.7			1.8		
確定調査結果	確定がん数(人) L	16	138	154	14	141	155	17	188	205
	確定がん率(%) M = L/B	0.15	0.34	0.30	0.13	0.34	0.30	0.18	0.44	0.39

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和元年度胃がんX線検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数 d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	269	524	10.0	13.3	11.9	12	11	257	513	4.5	2.1	2.9
45～49歳	2,391	3,400	226	423	9.5	12.4	11.2	12	20	214	403	5.3	4.7	4.9
50～54歳	2,494	3,868	190	433	7.6	11.2	9.8	14	12	176	421	7.4	2.8	4.2
55～59歳	3,464	5,767	245	480	7.1	8.3	7.9	18	23	227	457	7.3	4.8	5.7
60～64歳	7,789	11,161	480	829	6.2	7.4	6.9	42	48	438	781	8.8	5.8	6.9
65～69歳	13,314	16,514	834	1,039	6.3	6.3	6.3	92	83	742	956	11.0	8.0	9.3
70～74歳	11,961	15,344	855	945	7.1	6.2	6.6	105	75	750	870	12.3	7.9	10.0
75～79歳	11,039	16,002	489	549	4.4	3.4	3.8	56	42	433	507	11.5	7.7	9.4
80歳以上	18,509	39,463	414	425	2.2	1.1	1.4	78	43	336	382	18.8	10.1	14.4
計	73,663	115,469	4,002	5,647	5.4	4.9	5.1	429	357	3,573	5,290	10.7	6.3	8.1
合計	189,132		9,649		5.1			786		8,863		8.1		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	精密検査受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								胃がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応の中度 (%) j = h / d		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
40～44歳	11	10	91.7	90.9	91.3	4	3	7	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	10	17	83.3	85.0	84.4	5	5	5	12	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	12	9	85.7	75.0	80.8	1	2	11	7	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	11	21	61.1	91.3	78.0	2	5	9	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	37	44	88.1	91.7	90.0	6	7	31	37	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
65～69歳	77	76	83.7	91.6	87.4	17	18	56	57	1	1	3	0	0.360	0.000	0.160	3.3	0.0	1.7
70～74歳	90	65	85.7	86.7	86.1	10	11	77	53	1	0	2	1	0.234	0.106	0.167	1.9	1.3	1.7
75～79歳	42	38	75.0	90.5	81.6	9	8	30	29	0	0	3	1	0.613	0.182	0.385	5.4	2.4	4.1
80歳以上	69	40	88.5	93.0	90.1	18	9	48	29	1	0	2	2	0.483	0.471	0.477	2.6	4.7	3.3
計	359	320	83.7	89.6	86.4	72	68	274	247	3	1	10	4	0.250	0.071	0.145	2.3	1.1	1.8
合計	679		86.4			140		521		4		14		0.145			1.8		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	3,486	4,942	352	292	3,134	4,650	10.1	5.9	7.6
中国労働衛生協会	91	156	14	9	77	147	15.4	5.8	9.3
病院	260	364	37	31	223	333	14.2	8.5	10.9
診療所	165	185	26	25	139	160	15.8	13.5	14.6
計	4,002	5,647	429	357	3,573	5,290	10.7	6.3	8.1
合計	9,649		786		8,863		8.1		

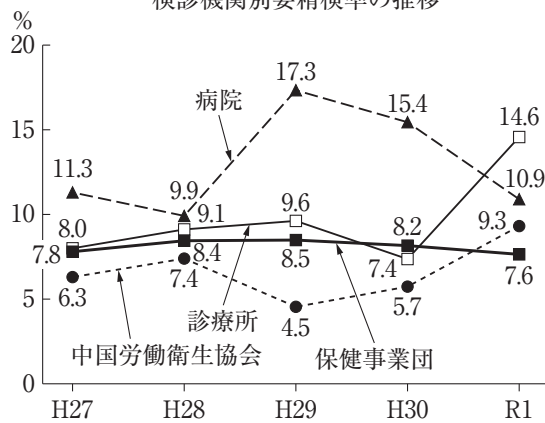
b. 検診機関別

年 齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d'/b'			精密検査結果								胃がん発見率 (%) g' = f'/a'			陽性反応的中度 (%) h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	異常 認めず		その他の 疾病		胃がん 疑い		胃がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	293	264	83.2	90.4	86.5	58	56	225	203	2	1	8	4	0.229	0.081	0.142	2.3	1.4	1.9
中国労働衛生協会	13	9	92.9	100.0	95.7	4	5	9	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	306	273	83.6	90.7	86.8	62	61	234	207	2	1	8	4	0.224	0.078	0.138	2.2	1.3	1.8
病院	31	26	83.8	83.9	83.8	4	4	26	22	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
診療所	22	21	84.6	84.0	84.3	6	3	14	18	0	0	2	0	1.212	0.000	0.571	7.7	0.0	3.9
施設検診小計	53	47	84.1	83.9	84.0	10	7	40	40	1	0	2	0	0.471	0.000	0.205	3.2	0.0	1.7
計	359	320	83.7	89.6	86.4	72	68	274	247	3	1	10	4	0.250	0.071	0.145	2.3	1.1	1.8
合計	679		86.4			140		521		4		14		0.145			1.8		

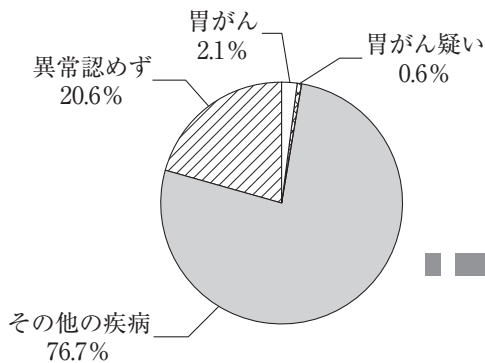
・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
保健事業団	7.8	8.4	8.5	8.2	7.6
中国労働衛生協会	6.3	7.4	4.5	5.7	9.3
車検診小計	7.7	8.4	8.4	8.1	7.7
病院	11.3	9.9	17.3	15.4	10.9
診療所	8.0	9.1	9.6	7.4	14.6
施設検診小計	9.6	9.6	13.7	12.4	12.2
合計	8.0	8.6	9.0	8.6	8.1

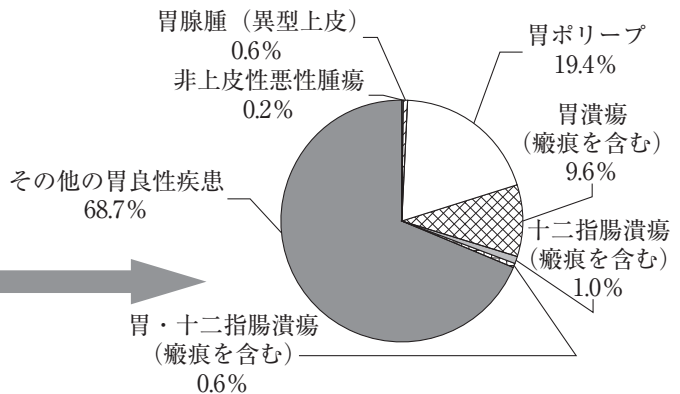
検診機関別要精検率の推移



精密検査結果 (X線)



その他の疾病の内訳



4) 令和元年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q = O/D R = O/H	陽性反応 適中度		
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%) E = D/A	車検診	施設検診	計	要精検率 (%) I = H/D	精 受診者数	精 検 受診率 (%) K = J/H	異 常 認めず L	その他の 疾病 M	がん N			がん疑い O	有所見者 P = M+N+O
	A	B	C	D = B + C		F	G	H = F + G		J								
鳥取市	59,003	2,159	496	2,655	4.5	97	53	150	5.6	131	87.3	24	106	1	0	107		
米子市	44,119	383	250	633	1.4	24	36	60	9.5	54	90.0	8	44	2	0	46		
倉吉市	17,150	516	24	540	3.1	52	3	55	10.2	43	78.2	6	37	0	0	37		
境港市	11,206	227	127	354	3.2	22	16	38	11.7	38	100.0	9	27	2	0	29		
岩美町	4,582	481	1	482	10.5	17	1	18	3.7	16	88.9	3	13	0	0	13		
八頭町	6,230	907	24	931	14.9	47	2	49	5.5	45	91.8	6	35	3	1	39		
若桜町	1,539	107	2	109	7.1	7	1	8	7.3	8	100.0	0	8	0	0	8		
智頭町	3,027	160	0	160	5.3	7	0	7	4.4	6	85.7	0	6	0	0	6		
湯梨浜町	5,676	518	0	518	9.1	33	0	33	6.4	25	75.8	6	19	0	0	19		
三朝町	2,574	305	1	306	11.9	31	0	31	10.1	24	77.4	8	14	2	0	16		
北栄町	5,516	537	8	545	9.9	52	0	52	9.5	49	94.2	14	35	0	0	35		
琴浦町	6,751	526	2	528	7.8	56	0	56	10.6	50	89.3	19	30	1	0	31		
南部町	4,011	209	15	224	5.6	19	2	21	9.4	14	66.7	2	12	0	0	12		
伯耆町	4,257	354	0	354	8.3	37	0	37	10.5	32	86.5	3	28	1	0	29		
日吉津村	1,008	116	24	140	13.9	19	5	24	17.1	18	75.0	2	15	0	1	16		
大山町	6,967	592	0	592	8.5	81	0	81	13.7	74	91.4	19	53	1	1	55		
日南町	2,551	278	0	278	10.9	31	0	31	11.2	20	64.5	4	15	1	0	16		
日野町	1,553	169	0	169	10.9	16	0	16	9.5	14	87.5	0	13	0	1	14		
江府町	1,412	131	0	131	9.3	19	0	19	14.5	18	94.7	7	11	0	0	11		
合計	189,132	8,675	974	9,649	5.1	667	119	786	8.1	679	86.4	140	521	14	4	539		
東部	74,381	3,814	523	4,337	5.8	175	57	232	5.3	206	88.8	33	168	4	1	173		
中部	37,667	2,402	35	2,437	6.5	224	3	227	9.3	191	84.1	53	135	3	0	138		
西部	77,084	2,459	416	2,875	3.7	268	59	327	11.4	282	86.2	54	218	7	3	228		

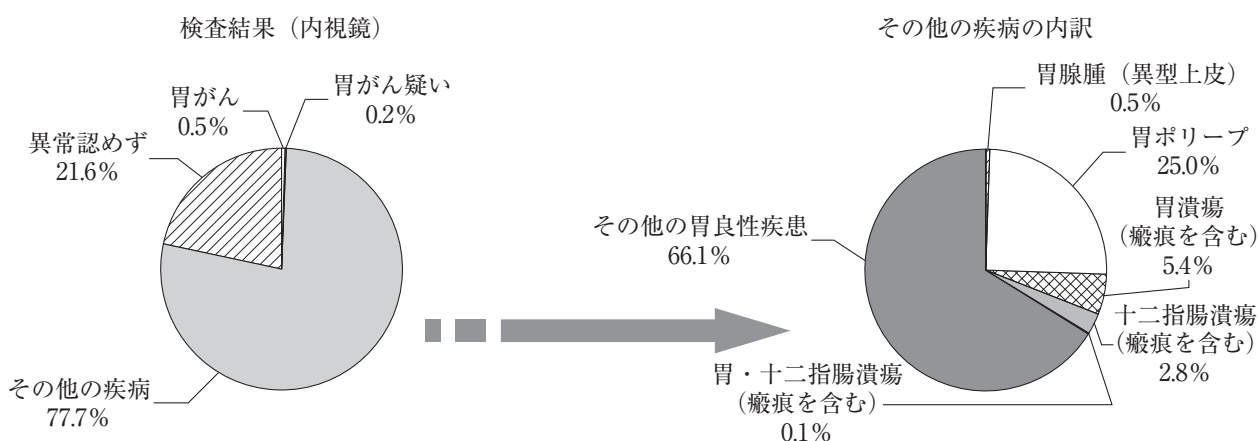
(3) 令和元年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数 a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b		c = b / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	593	950	268	410	324	539	1	0	0	1	0.000	0.105	0.065
45～49歳	608	1,063	226	394	382	666	0	1	0	2	0.000	0.188	0.120
50～54歳	592	1,186	189	334	400	848	2	0	1	4	0.169	0.337	0.281
55～59歳	784	1,599	190	469	591	1,127	2	1	1	2	0.128	0.125	0.126
60～64歳	1,713	2,884	333	694	1,369	2,183	3	1	8	6	0.467	0.208	0.305
65～69歳	3,553	4,443	609	967	2,911	3,465	8	4	25	7	0.704	0.158	0.400
70～74歳	4,291	5,296	710	1,097	3,529	4,182	14	5	38	12	0.886	0.227	0.522
75～79歳	2,983	3,909	476	766	2,478	3,128	7	6	22	9	0.738	0.230	0.450
80歳以上	2,668	3,730	433	710	2,193	2,988	11	8	31	24	1.162	0.643	0.860
計	17,785	25,060	3,434	5,841	14,177	19,126	48	26	126	67	0.708	0.267	0.450
合 計	42,845		9,275		33,303		74		193		0.450		

2) 検診機関別

年 齢	一次検診 受診者数 a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%)		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	4,832	6,394	831	1,274	3,952	5,085	18	14	31	21	0.642	0.328	0.463
診 療 所	12,953	18,666	2,603	4,567	10,225	14,041	30	12	95	46	0.733	0.246	0.446
計	17,785	25,060	3,434	5,841	14,177	19,126	48	26	126	67	0.708	0.267	0.450
合計	42,845		9,275		33,303		74		193		0.450		



3) 令和元年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	検査結果別人員						
				異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん 疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	が ん 発 見 率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	14,496	506	3.5	2,078	12,357	10	51	12,418	0.352	10.1
米子市	11,549	192	1.7	2,315	9,165	8	61	9,234	0.528	31.8
倉吉市	3,194	139	4.4	949	2,199	27	19	2,245	0.595	13.7
境港市	2,757	154	5.6	936	1,806	1	14	1,821	0.508	9.1
岩美町	609	31	5.1	48	556	1	4	561	0.657	12.9
八頭町	1,282	50	3.9	249	1,024	0	9	1,033	0.702	18.0
若桜町	552	23	4.2	71	477	2	2	481	0.362	8.7
智頭町	687	25	3.6	52	627	7	1	635	0.146	4.0
湯梨浜町	1,194	0	0.0	384	802	5	3	810	0.251	0.0
三朝町	381	0	0.0	375	5	0	1	6	0.262	0.0
北栄町	1,237	71	5.7	376	848	4	9	861	0.728	12.7
琴浦町	1,343	59	4.4	561	776	0	6	782	0.447	10.2
南部町	1,423	72	5.1	104	1,308	6	5	1,319	0.351	6.9
伯耆町	685	13	1.9	82	601	0	2	603	0.292	15.4
日吉津村	220	0	0.0	33	187	0	0	187	0.000	0.0
大山町	489	0	0.0	175	311	2	1	314	0.204	0.0
日南町	400	17	4.3	216	179	1	4	184	1.000	23.5
日野町	54	5	9.3	34	19	0	1	20	1.852	20.0
江府町	293	5	1.7	237	56	0	0	56	0.000	0.0
合 計	42,845	1,362	3.2	9,275	33,303	74	193	33,570	0.450	14.2
東 部	17,626	635	3.6	2,498	15,041	20	67	15,128	0.380	10.6
中 部	7,349	269	3.7	2,645	4,630	36	38	4,704	0.517	14.1
西 部	17,870	458	2.6	4,132	13,632	18	88	13,738	0.492	19.2

(4) 令和元年度胃がん検診受診状況（X線＋内視鏡）

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果＋内視鏡検査結果					がん発見率 (%) K = I / D
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J = G + H + I	
鳥取市	59,003	2,655	14,496	17,151	29.1	2,102	12,463	10	52	12,525	0.303
米子市	44,119	633	11,549	12,182	27.6	2,323	9,209	8	63	9,280	0.517
倉吉市	17,150	540	3,194	3,734	21.8	955	2,236	27	19	2,282	0.509
境港市	11,206	354	2,757	3,111	27.8	945	1,833	1	16	1,850	0.514
岩美町	4,582	482	609	1,091	23.8	51	569	1	4	574	0.367
八頭町	6,230	931	1,282	2,213	35.5	255	1,059	1	12	1,072	0.542
若桜町	1,539	109	552	661	42.9	71	485	2	2	489	0.303
智頭町	3,027	160	687	847	28.0	52	633	7	1	641	0.118
湯梨浜町	5,676	518	1,194	1,712	30.2	390	821	5	3	829	0.175
三朝町	2,574	306	381	687	26.7	383	19	0	3	22	0.437
北栄町	5,516	545	1,237	1,782	32.3	390	883	4	9	896	0.505
琴浦町	6,751	528	1,343	1,871	27.7	580	806	0	7	813	0.374
南部町	4,011	224	1,423	1,647	41.1	106	1,320	6	5	1,331	0.304
伯耆町	4,257	354	685	1,039	24.4	85	629	0	3	632	0.289
日吉津村	1,008	140	220	360	35.7	35	202	1	0	203	0.000
大山町	6,967	592	489	1,081	15.5	194	364	3	2	369	0.185
日南町	2,551	278	400	678	26.6	220	194	1	5	200	0.737
日野町	1,553	169	54	223	14.4	34	32	1	1	34	0.448
江府町	1,412	131	293	424	30.0	244	67	0	0	67	0.000
合計	189,132	9,649	42,845	52,494	27.8	9,415	33,824	78	207	34,109	0.394
東部	74,381	4,337	17,626	21,963	29.5	2,531	15,209	21	71	15,301	0.323
中部	37,667	2,437	7,349	9,786	26.0	2,698	4,765	36	41	4,842	0.419
西部	77,084	2,875	17,870	20,745	26.9	4,186	13,850	21	95	13,966	0.458

(5) 令和元年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	5	0	67	3	0	38	9	0	83	205
発見率 %	0.115	0.000	0.380	0.123	0.000	0.517	0.313	0.000	0.464	
	72 0.328			41 0.419			92 0.443			0.391
早期胃癌数	1	0	52	1	0	31	6	0	66	157
早期胃癌率 %	53 73.6			32 78.0			72 78.3			
進行胃癌数	4	0	15	2	0	7	3	0	17	48
切除例	3	0	30	3	0	18	6	0	38	98
内視鏡切除例	0	0	35	0	0	20	3	0	39	97
非切除例	2	0	2	0	0	0	0	0	6	10

表2 性・年齢別

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
男	0	2	35	69	34	140
女	3	6	15	20	21	65

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	0	3	0	0	5	0	0	3	12	7.6%
II a	0	0	4	0	0	5	4	0	13	26	16.5%
II b	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1.3%
II c	0	0	35	0	0	17	2	0	40	94	59.9%
II c + III	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
II b + II c	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.6%
II a + II c	0	0	7	1	0	4	0	0	7	19	12.1%
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	1.9%
計	1	0	52	1	0	31	6	0	66	157	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.1%
2	0	0	11	0	0	6	2	0	9	28	58.3%
3	1	0	0	2	0	1	1	0	2	7	14.6%
4	1	0	3	0	0	0	0	0	2	6	12.5%
5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2.1%
不明	2	0	0	0	0	0	0	0	3	5	10.4%
計	4	0	15	2	0	7	3	0	17	48	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1a	1	0	40	0	0	25	5	0	40	111
t1b	0	0	12	1	0	6	1	0	24	44
t2	2	0	4	2	0	4	1	0	4	17
t3	0	0	5	0	0	3	2	0	7	17
t4a	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
t4b	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計	3	0	65	3	0	38	9	0	77	195
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車 検 診	1	3	4	29%	7	3	14	1
施 設 健 診	0	0	0	0%	0	0	0	0
内 視 鏡 検 診	47	49	96	54%	62	20	178	2
計	48	52	100	52%	69	23	192	3

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	0	0	25
M	2	0	64
L	6	0	55
全 体	0	0	0
計	8	0	144
不 明	0	0	5

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	3	0	53
大 弯	2	0	24
前 壁	2	0	26
後 壁	1	0	38
全 周	0	0	0
計	8	0	141
不 明	0	0	8

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	1	0	8
M	6	0	16
L	1	0	12
D	0	0	0
全 体	0	0	0
計	8	0	36
不 明	1	0	3

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	1	0	15
大 弯	2	0	6
前 壁	2	0	5
後 壁	1	0	7
全 周	0	0	3
計	6	0	36
不 明	3	0	3

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検 診	X 線	内		
I A	1	0	44	1	0	29	4	0	63	6	0	136	6	40.00%	136	80.00%
I B	1	0	2	2	0	1	0	0	4	3	0	7	3	20.00%	7	4.12%
II A	1	0	3	0	0	4	0	0	1	1	0	8	1	6.67%	8	4.71%
II B	0	0	1	0	0	1	1	0	4	1	0	6	1	6.67%	6	3.53%
III A	0	0	1	0	0	0	3	0	1	3	0	2	3	20.00%	2	1.18%
III B	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	5	0	0.00%	5	2.94%
III C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%	0	0.00%
IV	1	0	4	0	0	1	0	0	1	1	0	6	1	6.67%	6	3.53%
計	4	0	58	3	0	36	8	0	76	15	0	170	15	100%	170	100%
不明	1	0	9	0	0	2	1	0	7	2	0	18	2		18	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

令和元年度子宮頸部がん検診は対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）129,896人のうち、受診者数32,318人、受診率24.9%で、平成30年度に比べ、受診率は0.1ポイント減であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が20歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数59,087人、受診者数25,836人、受診率43.7%で、全国平均（平成30年度）受診率16.0%に比較し高い。

要精検者数は466人（判定不能で再検査未実施となった者を含む）、一次検査の結果判定不能で、再検査の結果、判定不能だった者が14人であった。要精検率は1.44%で、平成30年度に比べ、要精検者数が83人、要精検率が0.25ポイントそれぞれ減少した。

精検受診者数396人、精検受診率85.0%で平成30年度に比べ6.7ポイント増加した。

精検の結果、がん6人、がん発見率（がん/受診者数）は0.02%で、前年度比0.01ポイント減であった。陽性反応適中度（がん/要精検者数）は1.3%であった。上皮内病変は127人（CIN3またはAIS 42人、CIN2 20人、CIN1 61人、CIN2か3区別不能4人）であった。

受診者数（率）はほぼ横ばい状態である。精検受診率は国の許容値70%以上は上回るものの、目標値90%以上には届いていない状況である。また、要精検率は許容値をわずかに超え、がん発見率、陽性反応適中度、いずれも国の許容値に届いていない状況である。

がん発見率の増加には反映されないものの、前がん病変であるCINの発見数は明らかに増加している。陽性反応適中度低下の主な原因は、HPV感染の推定に留まる細胞診ASC-USならびにCIN推定例の増加による要精検者数の大幅な増加（分母の増加）と考えられる。また、平成30年度から報告様式の変更に従い、上皮内がんを発見がんとして計上してきた平成29年度までと異なり、CIN3として集計することになったこと（分子の減少）も低下の一因と考えられる。精密検査結果のうち、上皮内病変32.1%を占めており、若年者層から多く見つかっており確実に検診の成果が上がっていると考えられる。今後は参考事項として実績報告一覧表にも掲載する予定である。

市町村別の要精検率、精検受診率に格差があり、要精検率1.4%以上のところが5市町村、精検受診率では70%以下のところが1町あった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	10,689 (33.1%)	78 (78)	0.73 (0.73)	0.78	0.60	0.80
施 設 検 診 (病院・診療所)	21,629 (66.9%)	388 (374)	1.79 (1.73)	1.90	1.82	1.72
計	32,318 (100%)	466 (452)	1.44 (1.40)	1.43	1.18	1.57

※要精検者数の（ ）は、判定不能の者のうち、再検が未実施者のを除く

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	73	93.6	1	0.009	0.000	0.000	0.047
施 設 検 診	323	83.2	5	0.023	0.027	0.034	0.018
計	396	85.0	6	0.019	0.016	0.016	0.022

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	5,390	42	0.78	40	95.2	15	0	0.000
中 部	3,178	19	0.60	19	100.0	5	0	0.000
西 部	2,121	17	0.80	14	82.4	4	1	0.047
計	10,689	78	0.73	73	93.6	24	1	0.009

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	上皮内病変	がん	がん発見率
東 部	7,481	142	1.90	119	83.8	51	2	0.027
中 部	2,912	53	1.82	46	86.8	17	1	0.034
西 部	11,236	193	1.72	158	81.9	35	2	0.018
計	21,629	388	1.79	323	83.2	103	5	0.023

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者32,318人中、体部がん検診対象者数は1,476人、一次検診会場での受診者は1,031人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は163人、受診者の合計は1,194人、受診率は80.9%であった。

一次検診の結果、要精検となった者24人、要精検率2.33%、精密検査受診者数は19人で、精密検査受診率79.2%であった。精検の結果、子宮体部がんが3人発見され、がん発見率は0.29%であった。陽性反応適中度12.5%であった。子宮内膜増殖症は2人であった。

また、医療機関での別途受診者から、子宮体部がんが3人、子宮内膜増殖症が1人発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

令和元年度は子宮頸部がん6例で、I A期2例、I B期以上が4例であった。治療対象のCIN3またはAISは46例であった。CIN1、2または腺異形成78例であった。平成30年度に比べ、子宮頸部癌が1例増、CIN3またはAISは1例減少した。なお、I B期以上4例の検診歴は、前年受診1例、3年以上前の受診1例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は7例、子宮内膜増殖症3例であった。

4. その他

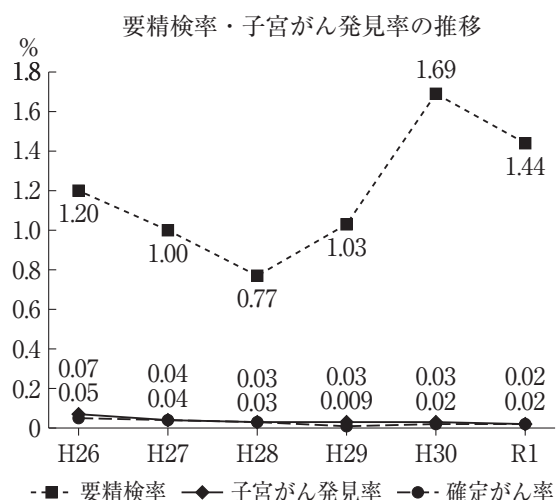
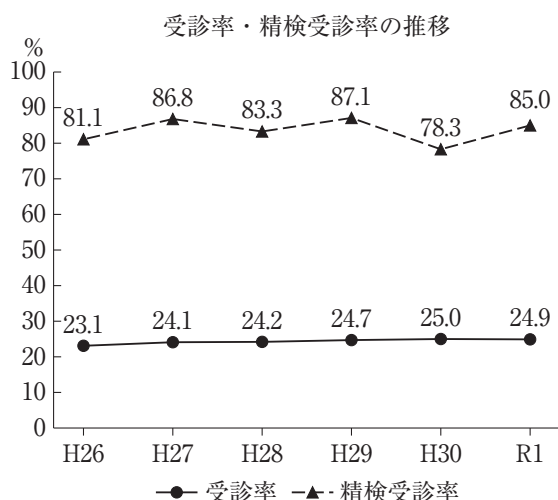
1) 令和元年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

令和元年度実績は、妊婦健康診査受診者3,863人中、子宮頸部がん検診受診者数3,821人、受診率98.9%で、要精検者数90人、要精検率2.4%、精検受診者数77人、精検受診率85.6%で精検の結果、がんは発見されなかった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一 次 検 診	対 象 者 数 (人) A	135,485	135,485	135,485	129,896	129,896	129,896	129,896
	受 診 者 数 (人) B	29,640	31,243	32,600	31,447	32,138	32,455	32,318
	受 診 率 (%) C = B/A	21.9	23.1	24.1	24.2	24.7	25.0	24.9
一次検診結果	異 常 認 め ず (人) D	29,193	30,868	32,275	31,206	31,807	31,906	31,838
	要 精 検 者 数 (人) E	447	375	325	241	331	549	466
	判 定 不 能 (人) F	70	15	23	19	36	45	14
	要 精 検 率 指 標 : 許 容 値 1.4% 以 下 (%) G = E/B	1.51	1.20	1.00	0.77	1.03	1.69	1.44
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数 (人) H	305	292	262	185	257	430	396
	精 検 受 診 率 指 標 : 目 標 値 90% 以 上 (%) I = H/E	80.9	81.1	86.8	83.3	87.1	78.3	85.0
精密検査結果	子 宮 が ん の 者 (人) J	25(150)	23(155)	14(146)	9(90)	10(130)	9(189)	6(127)
	子 宮 が ん 発 見 率 指 標 : 許 容 値 0.05% 以 上 (%) K = J/B	0.08	0.07	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02
	陽 性 反 応 適 中 度 指 標 : 許 容 値 4.0% 以 上 (%) L = J/E	6.6	6.4	4.6	4.1	3.4	1.6	1.3
確定調査結果	確 定 が ん 数 (人) M	25	15	14	9	3	5	5
	確 定 が ん 率 (%) N = M/B	0.08	0.05	0.04	0.03	0.01	0.02	0.02

- *1 精密検査結果欄の()内の数値は、平成29年度までは異形成の者、平成30年度からは上皮内病変の者の数を外数で計上
- *2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- *3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- *4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- *5 対象者数について、平成20年度報告から、20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚労省が示す算定式により算出した推計数を計上
- *6 要精検者数について、平成22年度報告から、一次検診で判定不能の者のうち、再検が未実施の者も含んだ数を計上



(2) 令和元年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 再掲	一次検診結果			要精検率 (%) e = d / b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20~24歳	3,705	491	13.3	128	19	0	472	3.87
25~29歳	2,963	1,179	39.8	561	52	1	1,127	4.41
30~34歳	3,735	2,030	54.4	1,239	74	0	1,956	3.65
35~39歳	4,024	2,552	63.4	1,827	74	0	2,478	2.90
40~44歳	3,950	3,327	84.2	2,382	66	0	3,261	1.98
45~49歳	3,400	3,067	90.2	2,310	63	0	3,004	2.05
50~54歳	3,868	2,724	70.4	2,049	37	0	2,687	1.36
55~59歳	5,767	2,847	49.4	2,221	21	2	2,826	0.74
60~64歳	11,161	3,622	32.5	2,861	23	6	3,599	0.64
65~69歳	16,514	3,997	24.2	3,358	16	3	3,981	0.40
70~74歳	15,344	3,663	23.9	3,083	11	2	3,652	0.30
75~79歳	16,002	1,837	11.5	1,532	8	0	1,829	0.44
80歳以上	39,463	982	2.5	786	2	0	980	0.20
計	129,896	32,318	24.9	24,337	466	14	31,852	1.44

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 f	精密検査受診率 (%) g = f/d	異常認めず	子宮がん h	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) i = h/b	陽性反応適中度 (%) k = h/d
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患				
20～24歳	17	89.5	7	0	0	2	2	4	0	0	2	0	1	0.000	0.0
25～29歳	48	92.3	16	0	0	1	1	11	0	2	17	2	2	0.000	0.0
30～34歳	64	86.5	29	0	0	6	7	7	3	2	10	6	1	0.000	0.0
35～39歳	65	87.8	28	0	0	7	5	13	0	5	7	1	4	0.000	0.0
40～44歳	59	89.4	23	2	0	10	2	9	0	1	12	1	5	0.060	3.0
45～49歳	56	88.9	22	1	0	9	1	5	0	4	14	6	1	0.033	1.6
50～54歳	33	89.2	12	0	0	3	0	7	1	4	6	3	5	0.000	0.0
55～59歳	12	57.1	6	0	0	1	0	3	0	0	2	4	1	0.000	0.0
60～64歳	12	52.2	6	0	0	0	1	1	0	2	2	3	2	0.000	0.0
65～69歳	13	81.3	5	1	0	2	1	0	0	1	3	1	2	0.025	6.3
70～74歳	9	81.8	5	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0.027	9.1
75～79歳	7	87.5	5	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0.000	0.0
80歳以上	1	50.0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.102	50.0
計	396	85.0	164	6	1	42	20	61	4	22	77	28	25	0.019	1.3

3) 検診機関別

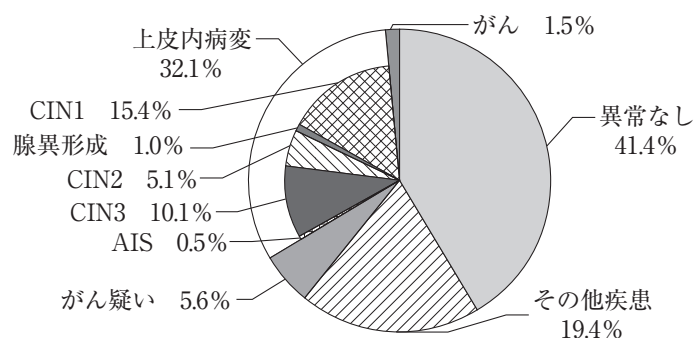
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'	一次検診結果			要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,490				76
中国労働衛生協会	199	2	0	197	1.01
病院	7,489	58	6	7,431	0.77
診療所	14,140	330	8	13,810	2.33
計	32,318	466	14	31,852	1.44

b. 精密検査結果

年 齢	精密検査受診者数 d'	精密検査受診率 (%) e' = d' / b'	異常認めず f'	子宮がん f'	精密検査結果							未受診	未把握	子宮がん発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'
					上皮内病変			その他							
					うち微小浸潤がん	CIN3 又はAIS	CIN2	CIN1	腺異形成	がん疑い 又は未確定	その他疾患				
保健事業団	71	93.4	28	1	0	8	3	12	1	10	8	2	2	0.010	1.3
中国労働衛生協会	2	100.0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.000	0.0
病院	44	75.9	19	2	0	3	1	6	0	1	12	4	3	0.027	3.4
診療所	279	84.5	116	3	1	31	16	43	3	11	56	22	20	0.021	0.9
計	396	85.0	164	6	1	42	20	61	4	22	77	28	25	0.019	1.3

精密検査結果 (受診者数 = 396人)



4) 令和元年度子宮頸部がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = O/D	陽性反応適中 (%) S = O/H
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異常認めず	その他疾病等	がん又は上皮内病変	がん		
	A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N = O + P	O	P	Q = M + N
鳥取市	41,588	3,360	6,583	9,943	23.9	26	122	148	1.49	127	85.8	55	16	56	2	54	72
米子市	32,218	89	7,665	7,754	24.1	1	145	146	1.88	117	80.1	53	39	25	1	24	64
倉吉市	11,532	525	1,602	2,127	18.4	2	35	37	1.74	32	86.5	12	9	11	1	10	20
境港市	7,734	383	1,606	1,989	25.7	3	23	26	1.31	23	88.5	9	8	6	0	6	14
岩美町	2,911	568	204	772	26.5	7	2	9	1.17	8	88.9	2	2	4	0	4	6
八頭町	3,960	1,025	323	1,348	34.0	6	10	16	1.19	15	93.8	6	4	5	0	5	9
若桜町	941	246	56	302	32.1	2	0	2	0.66	2	100.0	1	0	1	0	1	1
智頭町	1,916	191	315	506	26.4	1	8	9	1.78	7	77.8	5	0	2	0	2	2
湯梨浜町	3,660	689	470	1,159	31.7	1	8	9	0.78	8	88.9	2	2	4	0	4	6
三朝町	1,636	334	131	465	28.4	5	0	5	1.08	5	100.0	0	2	3	0	3	5
北栄町	3,548	759	400	1,159	32.7	3	4	7	0.60	7	100.0	2	3	2	0	2	5
琴浦町	4,321	871	309	1,180	27.3	8	6	14	1.19	13	92.9	7	3	3	0	3	6
南部町	2,585	278	529	807	31.2	2	10	12	1.49	10	83.3	4	5	1	0	1	6
伯耆町	2,771	366	343	709	25.6	4	0	4	0.56	4	100.0	1	2	1	1	0	3
日吉津村	724	69	257	326	45.0	0	3	3	0.92	3	100.0	1	1	1	0	1	2
大山町	4,395	509	423	932	21.2	3	9	12	1.29	8	66.7	2	1	5	0	5	6
日南町	1,567	228	72	300	19.1	2	0	2	0.67	2	100.0	0	1	1	0	1	2
日野町	989	199	6	205	20.7	2	0	2	0.98	2	100.0	0	1	1	0	1	2
江府町	900	0	335	335	37.2	0	3	3	0.90	3	100.0	2	0	1	1	0	1
合計	129,896	10,689	21,629	32,318	24.9	78	388	466	1.44	396	85.0	164	99	133	6	127	232
東部	51,316	5,390	7,481	12,871	25.1	42	142	184	1.43	159	86.4	69	22	68	2	66	90
中部	24,697	3,178	2,912	6,090	24.7	19	53	72	1.18	65	90.3	23	19	23	1	22	42
西部	53,883	2,121	11,236	13,357	24.8	17	193	210	1.57	172	81.9	72	58	42	3	39	100

※1 令和元年度から上皮内病変には「AIS」「CIN3」「CIN2」「CIN1」及び「CIN2又は3のいずれかで区別できない者(HSIL)」の合計を計上

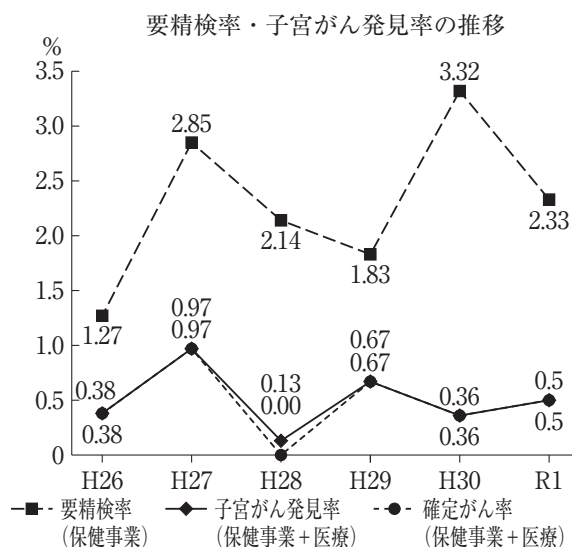
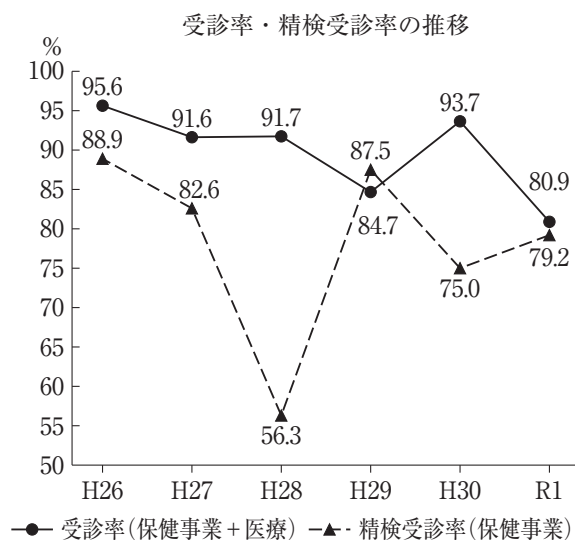
※2 平成30年度から「その他疾病等」には「子宮頸がんの疑いがある者又は未確定」及び「子宮頸がんおよびCIN(異形成等)以外の疾患であった者(転移性の子宮頸がんを含む)」を計上

(3) 子宮体部がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成26年度			平成27年度			平成28年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	823		823	896		896	823		823
	受 診 者 数(人) B	709	78	787	806	15	821	748	7	755
	受 診 率(%) C = B / A	86.1		95.6	90.0		91.6	90.9		91.7
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	697			782			726		
	要 精 検 者 数(人) E	9			23			16		
	判 定 不 能(人) F	3			1			6		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	1.27			2.85			2.14		
	精 検 受 診 者 数(人) H	8			19			9		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	88.9			82.6			56.3		
	子 宮 が ん の 者(人) J	3(3)	0(0)	3(3)	6(2)	2(4)	8(6)	1(1)	0(2)	1(3)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.42	0.00	0.38	0.74	13.33	0.97	0.13	0.00	0.13
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	33.3			26.1			6.3		
	確 定 が ん 数(人)	3	0	3	6	2	8	0	0	0
	確 定 が ん 率(%)			0.38			0.97			0.00

区 分		平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	1,057		1,057	1,197		1,197	1,476		1,476
	受 診 者 数(人) B	874	21	895	964	157	1,121	1,031	163	1,194
	受 診 率(%) C = B / A	82.7		84.7	80.5		93.7	69.9		80.9
一次検診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	845			919			1,000		
	要 精 検 者 数(人) E	16			32			24		
	判 定 不 能(人) F	13			13			7		
精密検査	要 精 検 率(%) G = E / B	1.83			3.32			2.33		
	精 検 受 診 者 数(人) H	14			24			19		
精密検査 結 果	精 検 受 診 率(%) I = H / E	87.5			75.0			79.2		
	子 宮 が ん の 者(人) J	3(1)	3(0)	6(1)	4(2)	0(1)	4(3)	3(2)	3(1)	6(3)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) K = J / B	0.34	14.29	0.67	0.41	0.00	0.36	0.29	1.84	0.50
確定調査 結 果	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J / E	18.8			12.5			12.5		
	確 定 が ん 数(人)	3	3	6	4	0	4	3	3	6
	確 定 が ん 率(%)			0.67			0.36			0.50

- ※ 1 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
- ※ 2 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- ※ 3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※ 4 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- ※ 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 令和元年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	一次検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	491	5	1.02	1	20.0	0	0	1	0.00
25～29歳	1,179	21	1.78	15	71.4	0	1	14	0.00
30～34歳	2,030	79	3.89	53	67.1	0	0	53	0.00
35～39歳	2,552	114	4.47	86	75.4	0	0	86	0.00
40～44歳	3,327	207	6.22	145	70.0	3	0	142	2.07
45～49歳	3,067	317	10.34	238	75.1	6	0	232	2.52
50～54歳	2,724	264	9.69	192	72.7	6	2	184	3.13
55～59歳	2,847	152	5.34	113	74.3	7	0	106	6.19
60～64歳	3,622	72	1.99	46	63.9	0	0	46	0.00
65～69歳	3,997	92	2.30	60	65.2	2	0	58	3.33
70～74歳	3,663	77	2.10	47	61.0	0	1	46	0.00
75～79歳	1,837	51	2.78	22	43.1	0	1	21	0.00
80歳以上	982	25	2.55	13	52.0	0	2	11	0.00
計	32,318	1,476	4.57	1,031	69.9	24	7	1,000	2.33

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	3	100.0	2	1	0	0	0.00	0.0
45～49歳	5	83.3	3	1	1	0	0.00	0.0
50～54歳	4	66.7	3	0	1	0	0.00	0.0
55～59歳	6	85.7	3	0	0	3	2.65	42.9
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	1	50.0	0	1	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	19	79.2	11	3	2	3	0.29	12.5

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診受診者数	精密検査結果				子宮がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮がん	
20～24歳	1	1	0	0	0	0.00
25～29歳	1	1	0	0	0	0.00
30～34歳	13	13	0	0	0	0.00
35～39歳	15	14	1	0	0	0.00
40～44歳	29	28	0	1	0	0.00
45～49歳	33	33	0	0	0	0.00
50～54歳	32	30	2	0	0	0.00
55～59歳	12	9	1	0	2	16.67
60～64歳	11	9	1	0	1	9.09
65～69歳	4	3	1	0	0	0.00
70～74歳	6	4	2	0	0	0.00
75～79歳	6	5	1	0	0	0.00
80歳以上	0	0	0	0	0	0.00
計	163	150	9	1	3	1.84

4) 令和元年度子宮体部がん検診受診状況(保健事業分)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率(%) R=O/D	陽性反応適中度(%) S=O/H	
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率(%) E=D/A	車検診	施設検診	計	要精検率(%) I=H/D	精検受診者数	精検受診率(%) K=J/H	異認めず	その他の疾病	がん又は子宮内膜増殖症	がん			子宮内膜増殖症
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N=O+P	O	P	Q=M+N	R=O/D	S=O/H
鳥取市	466	0	271	271	58.2	0	9	3.32	9	100.0	3	3	3	2	1	6	0.74	22.2
米子市	550	0	371	371	67.5	0	9	2.43	6	66.7	4	0	2	1	1	2	0.27	11.1
倉吉市	159	0	148	148	93.1	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
境港市	3	0	3	3	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	7	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	58	0	33	33	56.9	0	1	3.03	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
若桜町	5	0	3	3	60.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	11	0	5	5	45.5	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
湯梨浜町	27	0	27	27	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	14	0	12	12	85.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
北栄町	30	0	26	26	86.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	41	0	34	34	82.9	0	1	2.94	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
南部町	19	0	19	19	100.0	0	1	5.26	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
伯耆町	10	0	8	8	80.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日吉津村	10	0	10	10	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	24	0	23	23	95.8	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	3	0	3	3	100.0	0	1	33.33	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日野町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	39	0	35	35	89.7	0	2	5.71	2	100.0	2	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	1,476	0	1,031	1,031	69.9	0	24	2.33	19	79.2	11	3	5	3	2	8	0.29	12.5
東部	547	0	312	312	57.0	0	10	3.21	10	100.0	4	3	3	2	1	6	0.64	20.0
中部	271	0	247	247	91.1	0	1	0.40	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.00	0.0
西部	658	0	472	472	71.7	0	13	2.75	8	61.5	6	0	2	1	1	2	0.21	7.7

(5) 令和元年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
CIN1、2または腺異形成	21	13	110	65
CIN3 または AIS	10	8	35	38
頸癌 I A 期	0	1	2	1
頸癌 I B 期以上	0	0	3	4
合計	31	21	150	104

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成30年度	令和元年度
内膜増殖症	3	3
体癌 I A 期	3	4
体癌 I B 期以上	1	3
合計	7	10

表3 発見子宮がん症例（I B期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	1	1
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	1	1
初回受診	0	2	2

表4 治療機関

	CIN3またはAIS	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	7	1	2	10
鳥取県立中央病院	12	1	1	14
鳥取県立厚生病院	6	0	1	7
鳥取赤十字病院	4	0	0	4
博愛病院	4	0	0	4
彦名レディース ライフクリニック	1	0	0	1
脇田産婦人科医院	2	0	0	2
県外など	5	0	0	5
計	41	2	4	47

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

令和元年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）189,132人のうち、受診者数54,671人、受診率28.9%で前年度より0.2ポイント減であった。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数24,714人、受診率32.1%で、全国平均（平成30年度）7.1%に比べ高い。

このうち要精検者は2,123人、要精検率3.88%で前年度より100人（0.21ポイント）増加した。精密検査受診者は1,887人、精検受診率88.9%で前年度より2.0ポイント減であった。

要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下を上回り、前年度より増加した。精検受診率は国の目標値90%をわずかに下回ったが、原発性肺がん38人、肺がん疑い104人の計142人が発見された。肺がん発見率は0.07%で、国の指標（許容値）0.03%以上より高率で、前年度より7人（0.01ポイント）増加した。また、陽性反応的中度は1.8%であり、国の指標（許容値）1.3%を上回り、前年度より0.3ポイント増加した。令和元年度の結果からは、鳥取県は肺がんの罹患率が高く、要精検率は許容値を上回るものの、陽性反応的中度は高く、引き続き多くの肺がんが発見され、精度管理も良好と考えられた。

施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診4.40%、車検診3.24%であり、施設検診の方が1.16ポイント高い傾向にあった。要精検率については地域差があり、継続して精度管理には注意を払う必要がある。

X線受診者総数55,050人のうち経年受診者は40,666人、経年受診率73.9%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,026人（12.7%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,160人で、X線検査受診者の3.9%、要精検者は7人で、うちがんが2人発見され、がん発見率0.093%であった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.049%で、非経年受診者のがん発見率0.120%で、非経年受診者の方が2.46倍高かった。また、高危険群所属者6,395人のうちがんが7人発見され、がん発見率0.109%、非高危険群所属者48,276人のうちがんが31人発見され、がん発見率0.064%で、高危険群所属者の方が1.70倍高かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	24,346 (44.5%)	790	3.24	2.54	3.63	3.54
施 設 検 診 (病 院 ・ 診 療 所)	30,325 (55.5%)	1,333	4.40	3.74	4.74	5.61
計	54,671 (100%)	2,123	3.88	3.37	4.07	4.49

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	691	87.5	18	0.074	0.090	0.059	0.072
施 設 検 診	1,196	89.7	20	0.066	0.068	0.066	0.061
計	1,887	88.9	38	0.070	0.075	0.062	0.067

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,801	198	2.54	172	86.9	10	7	0.090
中 部	6,837	248	3.63	210	84.7	18	4	0.059
西 部	9,708	344	3.54	309	89.8	20	7	0.072
計	24,346	790	3.24	691	87.5	48	18	0.074

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	17,603	659	3.74	613	93.0	43	12	0.068
中 部	4,537	215	4.74	184	85.6	8	3	0.066
西 部	8,185	459	5.61	399	86.9	5	5	0.061
計	30,325	1,333	4.40	1,196	89.7	56	20	0.066

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (率)		
	男	女	計	男	女	計
H29	21,943	32,833	54,776	16,254 (74.1%)	24,260 (73.9%)	40,514 (74.0%)
H30	22,197	32,853	55,050	16,343 (73.6%)	24,323 (74.0%)	40,666 (73.9%)
R 1	22,150	32,521	54,671	15,612 (70.5%)	23,244 (71.5%)	38,856 (71.1%)

(2) がん発見率の推移

年 度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H29	40,514	6	0.015	14,262	21	0.147	9.94
H30	40,666	16	0.039	14,384	15	0.104	2.65
R 1	38,856	19	0.049	15,815	19	0.120	2.46

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当する者
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）		
	男	女	計	男	女	計
H29	21,943	32,833	54,776	6,615 (30.1%)	329 (1.0%)	6,944 (12.7%)
H30	22,197	32,853	55,050	6,664 (30.0%)	362 (1.1%)	7,026 (12.8%)
R 1	22,150	32,521	54,671	6,093 (27.5%)	302 (0.9%)	6,395 (11.7%)

(2) がん発見率の推移

年 度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H29	6,944	14	0.202	47,832	13	0.027	7.42
H30	7,026	4	0.057	48,024	27	0.056	1.01
R 1	6,395	7	0.109	48,276	31	0.064	1.70

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年 度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	が ん	がん発見率
H29	6,944	2,343	0	0.00	0	0	0.000
H30	7,026	2,162	7	0.32	7	2	0.093
R 1	6,395	1,828	1	0.05	0	0	0.000

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H29	27	27	0	0
H30	31	29	1	1
R 1	38	38	0	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

昭和62年度から令和元年度までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,626例、内訳は原発性肺腫瘍1,471例、転移性肺腫瘍155例であった。

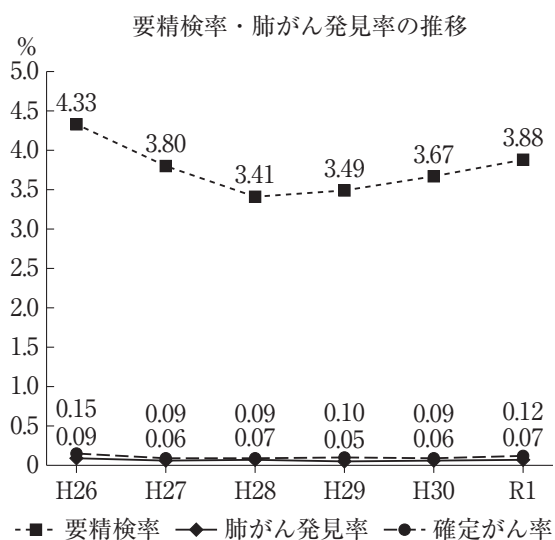
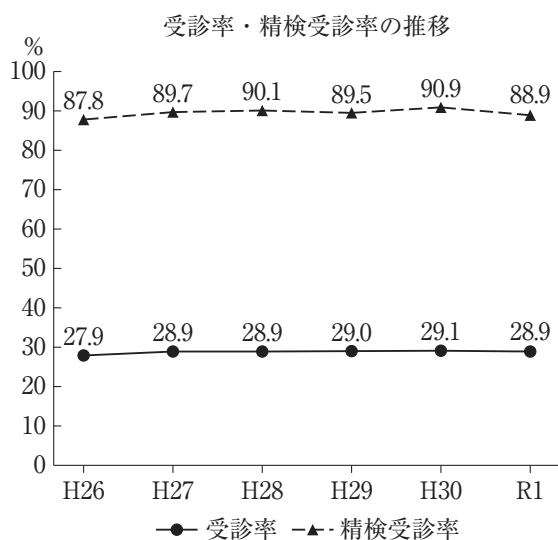
令和元年度については、以下のとおりであった。

- (1) 原発性肺腫瘍59例、転移性肺腫瘍4例、合計63例の肺がん確定診断を得た。
- (2) 発見された原発性肺腫瘍の46例すべて（100%）が胸部X線で見られ、喀痰細胞診で見られた肺がんはなかった。
- (3) 対人口10万人あたりの原発性肺腫瘍発見者は106人と令和元年度は高い。
- (4) 原発性肺腫瘍の平均年齢は74.6歳、男性35例、女性は24例（40.6%）、臨床病期はⅠA期21例（35.6%）、Ⅰ期32例（54.2%）と少し下がっている。組織型は、腺癌は47例（78.3%）で集計は60%であった。
- (5) 手術症例の割合は36例（61.0%）、術後病期Ⅰ期の肺腫瘍は21例（58.3%）であり、術後病期Ⅰ期（Tis）が1例（2.8%）あった。腺癌が32例（88.9%）で圧倒的に多かった。
- (6) 腫瘍径は平成30年度より第8版となり充実成分径で計測するようになったため、平均29.5mmであった。しかしながら、第7版に準じた腫瘍径は32.1mmとほとんど変わらなかった。
- (7) 転移性肺腫瘍は4例あり、胃癌1例、膀胱癌1例、子宮肉腫1例、腹膜癌1例であった。
- (8) 原発性肺腫瘍確定者の施設検診と車検診の比較では、概ね差はなかった。
- (9) 地区別の肺腫瘍臨床病期Ⅰの割合は東部32.1%、中部64.3%、西部82.4%、全体で54.2%であった。また、治療法については、手術及び化学療法で東部28.6%、中部85.7%、西部94.1%、全体で61.0%であった。地区で差が出ている。東部の要精検率が3.37%と3地区の中では一番低く、陽性的中度はたしかに高いが、要精検率を低く抑えていることが早期癌の見逃しに繋がっているのではないか。C判定を多くつけているために、早期の肺腫瘍を見逃していないか。癌が発見された時には、進行癌で見つかってしまっていないか、など、結果的には肺腫瘍死亡が増えてしまうことのないように、推移を注視していくべきとの意見があった。

(1) 肺がん検診の受診者数、受診率等の推移

区 分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	189,132	189,132	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	53,208	55,045	54,679	54,776	55,050	54,671
	受 診 率(%) C = B/A	27.9	28.9	28.9	29.0	29.1	28.9
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	50,905	52,953	52,815	52,867	53,032	52,549
	要 精 検 者 数(人) E	2,303	2,092	1,864	1,909	2,023	2,123
	要 精 検 率(%) F = E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	4.33	3.80	3.41	3.49	3.67	3.88
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,021	1,877	1,680	1,709	1,839	1,887
	精 検 受 診 率(%) H = G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	87.8	89.7	90.1	89.5	90.9	88.9
精 密 検 査 結 果	肺 が ん の 者(人) I	55(74)	34(78)	40(52)	28(94)	31(115)	46(104)
	上記のうち原発性肺がんの数 J	46	33	37	27	31	38
	肺 が ん 発 見 率(%) K = J/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.09	0.06	0.07	0.05	0.06	0.07
	陽 性 反 応 適 中 度(%) L = J/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	2.0	1.6	2.0	1.4	1.5	1.8
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) M	81	48	50	53	52	63
	上記のうち原発性肺がん数(人) N	74	47	46	50	49	59
	確 定 が ん 率(%) O = N/B	0.15	0.09	0.09	0.10	0.09	0.12

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者数を計上



(2) 令和元年度肺がん検診結果

1) 一次検診（年齢階級別）

a. X線検査結果

年 齢	対象者数		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査									エックス線フィルム読影結果				
			一次検診 受診者数		受診率 (%)			経年受診者数 再掲※		経年受診者 割合 (%)		要精検者数		要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			d		e = d/b		f	g = f/b			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	779	1,347	28.8	34.1	32.0	274	517	35.2	38.4	14	17	1.80	1.26	1.46
45～49歳	2,391	3,400	722	1,182	30.2	34.8	32.9	407	679	56.4	57.4	18	22	2.49	1.86	2.10
50～54歳	2,494	3,868	633	1,251	25.4	32.3	29.6	366	742	57.8	59.3	19	23	3.00	1.84	2.23
55～59歳	3,464	5,767	780	1,733	22.5	30.1	27.2	460	1,052	59.0	60.7	22	44	2.82	2.54	2.63
60～64歳	7,789	11,161	1,969	3,633	25.3	32.6	29.6	1,168	2,328	59.3	64.1	77	117	3.91	3.22	3.46
65～69歳	13,314	16,514	4,565	6,128	34.3	37.1	35.8	3,205	4,590	70.2	74.9	192	193	4.21	3.15	3.60
70～74歳	11,961	15,344	5,530	7,117	46.2	46.4	46.3	4,232	5,571	76.5	78.3	246	249	4.45	3.50	3.91
75～79歳	11,039	16,002	3,587	4,897	32.5	30.6	31.4	2,738	3,794	76.3	77.5	192	197	5.35	4.02	4.59
80歳以上	18,509	39,463	3,585	5,233	19.4	13.3	15.2	2,762	3,971	77.0	75.9	208	272	5.80	5.20	5.44
計	73,663	115,469	22,150	32,521	30.1	28.2	28.9	15,612	23,244	70.5	71.5	988	1,134	4.46	3.49	3.88
合計	189,132		54,671		28.9			38,856		71.1		2,122		3.88		

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中高危険群 所属者※		喀痰容器 提出者数		喀痰細胞診結果						X線・ 喀 痰 細胞診 ともに 要精検		一次検診総合結果				
					要精検 者 数		精検不要		要精検率 (%)				要精検者数		要精検率 (%)		
	h	i	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	3	0	2	1	0	0	2	1	0.00	0.00	0	0	14	17	1.80	1.26	1.46
45～49歳	4	0	5	1	0	0	5	1	0.00	0.00	0	0	18	22	2.49	1.86	2.10
50～54歳	126	17	47	6	0	0	47	6	0.00	0.00	0	0	19	23	3.00	1.84	2.23
55～59歳	205	30	78	6	0	0	78	6	0.00	0.00	0	0	22	44	2.82	2.54	2.63
60～64歳	606	50	185	7	0	0	185	7	0.00	0.00	0	0	77	117	3.91	3.22	3.46
65～69歳	1,569	74	467	14	0	0	467	14	0.00	0.00	0	0	192	193	4.21	3.15	3.60
70～74歳	1,893	69	531	20	0	0	531	20	0.00	0.00	0	0	246	249	4.45	3.50	3.91
75～79歳	985	40	260	12	0	0	260	12	0.00	0.00	0	0	192	197	5.35	4.02	4.59
80歳以上	702	22	182	4	1	0	181	4	0.55	0.00	0	0	209	272	5.83	5.20	5.45
計	6,093	302	1,757	71	1	0	1,756	71	0.06	0.00	0	0	989	1,134	4.47	3.49	3.88
合 計	6,395		1,828		1		1,827		0.05		0		2,123		3.88		

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として下記の条件に該当するもの
年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (再掲)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度 (%)		
	n		o		p = o / n			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		r = q / b			s = q / n		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	14	17	13	16	92.9	94.1	93.5	8	9	5	6	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	18	22	15	19	83.3	86.4	85.0	8	11	6	4	1	3	0	1	0.000	0.085	0.053	0.0	4.5	2.5
50～54歳	19	23	16	18	84.2	78.3	81.0	10	9	5	8	1	0	0	1	0.000	0.080	0.053	0.0	4.3	2.4
55～59歳	22	44	20	40	90.9	90.9	90.9	10	21	9	17	1	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	77	117	66	107	85.7	91.5	89.2	30	53	32	48	4	5	0	1	0.000	0.028	0.018	0.0	0.9	0.5
65～69歳	192	193	164	178	85.4	92.2	88.8	79	78	76	90	6	7	3	3	0.066	0.049	0.056	1.6	1.6	1.6
70～74歳	246	249	221	228	89.8	91.6	90.7	91	85	108	123	17	17	5	3	0.090	0.042	0.063	2.0	1.2	1.6
75～79歳	192	197	169	180	88.0	91.4	89.7	65	83	89	85	9	8	6	4	0.167	0.082	0.118	3.1	2.0	2.6
80歳以上	209	272	176	241	84.2	88.6	86.7	66	104	91	123	12	10	7	4	0.195	0.076	0.125	3.3	1.5	2.3
計	989	1,134	860	1,027	87.0	90.6	88.9	367	453	421	504	51	53	21	17	0.095	0.052	0.070	2.1	1.5	1.8
合計	2,123		1,887		88.9			820		925		104		38		0.070			1.8		
X線のみ要精検	2,122		1,887		88.9			820		925		104		38		/			1.8		
喀痰のみ要精検	1		0		0.0			0		0		0		0					0.0		
X線+喀痰要精検	0		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

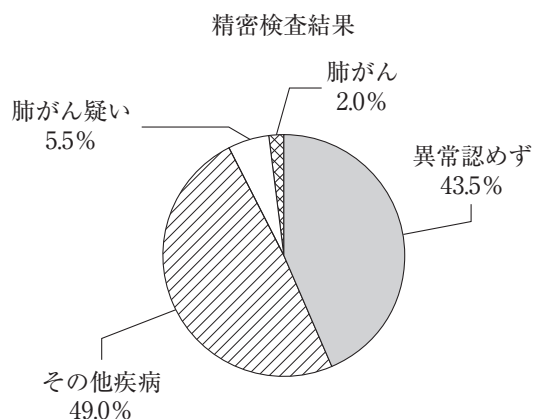
a. 一次検診結果

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 a'		経年受診者数再掲		要精検者数 b'		異常認めず		要精検率 (%) c' = b' / a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	8,885	14,593	6,393	10,626	336	418	8,549	14,175	3.78	2.86	3.21	2,154	100
中国労働衛生協会	288	580	226	408	16	19	272	561	5.56	3.28	4.03	35	5
病 院	4,287	5,542	3,111	3,956	214	193	4,073	5,349	4.99	3.48	4.14	1,201	57
診 療 所	8,690	11,806	5,882	8,254	422	504	8,268	11,302	4.86	4.27	4.52	2,703	140
計	22,150	32,521	15,612	23,244	988	1,134	21,162	31,387	4.46	3.49	3.88	6,093	302
合 計	54,671		38,856		2,122		52,549		3.88			6,395	

一次検診機関	喀痰容器提出者数		喀痰細胞診結果						X線・喀痰細胞診ともに要精検(C)		一次検診総合結果				
			要精検者数		精検不要		要精検率(%)				要精検者数		要精検率(%)		
	d'		e'		f' = e'/d'		g'		h' = b' + e' - g'		i' = h'/a'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	524	23	1	0	523	23	0.19	0.00	0	0	337	418	3.79	2.86	3.22
中国労働衛生協会	25	0	0	0	25	0	0.00	0.00	0	0	16	19	5.56	3.28	4.03
病院	466	20	0	0	466	20	0.00	0.00	0	0	214	193	4.99	3.48	4.14
診療所	742	28	0	0	742	28	0.00	0.00	0	0	422	504	4.86	4.27	4.52
計	1,757	71	1	0	1,756	71	0.06	0.00	0	0	989	1,134	4.47	3.49	3.88
合計	1,828		1		1,827		0.05		0		2,123		3.88		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数		精密検査受診率(%)			精密検査結果								肺がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)					
						異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん										
	j'		k' = j'/h'			男		女		男		女		男		女		m' = l'/a'			n' = l'/h'	
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計			
保健事業団	284	374	84.3	89.5	87.2	107	167	144	177	24	21	9	9	0.101	0.062	0.077	2.7	2.2	2.4			
中国労働衛生協会	16	17	100.0	89.5	94.3	6	3	9	12	1	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0			
病院	186	172	86.9	89.1	88.0	81	71	93	93	9	6	3	2	0.070	0.036	0.051	1.4	1.0	1.2			
診療所	374	464	88.6	92.1	90.5	173	212	175	222	17	24	9	6	0.104	0.051	0.073	2.1	1.2	1.6			
計	860	1,027	87.0	90.6	88.9	367	453	421	504	51	53	21	17	0.095	0.052	0.070	2.1	1.5	1.8			
合計	1,887		88.9			820		925		104		38		0.070			1.8					



4) 令和元年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数			受診者数			要精検者数			精密検査結果別人員						がん陽性反応 適中 度 (%) R = O / H		
	A	B	C	施設検診	計	受診率 (%) E = D / A	車検診	施設検診	計	要精検率 (%) I = H / D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K = J / H	異 認め L	常 す 疾 病 M	がん疑い N		肺 が ん O	有 所 見 者 P = M + N + O
鳥取市	59,003	3,751	15,270	19,021	32.2	91	551	642	3.38	589	91.7	264	267	47	11	325	0.058	1.7
米子市	44,119	3,394	5,107	8,501	19.3	114	275	389	4.58	364	93.6	169	178	8	9	195	0.106	2.3
倉吉市	17,150	924	2,670	3,594	21.0	25	119	144	4.01	132	91.7	62	60	8	2	70	0.056	1.4
境港市	11,206	1,340	1,738	3,078	27.5	43	116	159	5.17	118	74.2	39	73	6	0	79	0.000	0.0
岩美町	4,582	1,200	375	1,575	34.4	36	17	53	3.37	48	90.6	27	18	2	1	21	0.063	1.9
八頭町	6,230	2,172	794	2,966	47.6	57	37	94	3.17	87	92.6	36	44	2	5	51	0.169	5.3
若桜町	1,539	195	667	862	56.0	7	33	40	4.64	38	95.0	12	23	2	1	26	0.116	2.5
智頭町	3,027	483	497	980	32.4	7	21	28	2.86	23	82.1	8	14	0	1	15	0.102	3.6
湯梨浜町	5,676	1,677	795	2,472	43.6	73	35	108	4.37	99	91.7	41	48	8	2	58	0.081	1.9
三朝町	2,574	936	187	1,123	43.6	43	21	64	5.70	47	73.4	15	30	2	0	32	0.000	0.0
北栄町	5,516	1,620	562	2,182	39.6	46	24	70	3.21	54	77.1	23	27	3	1	31	0.046	1.4
琴浦町	6,751	1,680	323	2,003	29.7	61	16	77	3.84	62	80.5	32	23	5	2	30	0.100	2.6
南部町	4,011	432	1,340	1,772	44.2	19	68	87	4.91	77	88.5	31	42	4	0	46	0.000	0.0
伯耆町	4,257	1,294	0	1,294	30.4	38	0	38	2.94	35	92.1	19	13	2	1	16	0.077	2.6
日吉津村	1,008	235	0	235	23.3	13	0	13	5.53	12	92.3	2	9	1	0	10	0.000	0.0
大山町	6,967	1,412	0	1,412	20.3	43	0	43	3.05	39	90.7	21	16	1	1	18	0.071	2.3
日南町	2,551	670	0	670	26.3	28	0	28	4.18	21	75.0	7	13	0	1	14	0.149	3.6
日野町	1,553	326	0	326	21.0	15	0	15	4.60	13	86.7	4	8	1	0	9	0.000	0.0
江府町	1,412	605	0	605	42.8	31	0	31	5.12	29	93.5	8	19	2	0	21	0.000	0.0
合計	189,132	24,346	30,325	54,671	28.9	790	1,333	2,123	3.88	1,887	88.9	820	925	104	38	1,067	0.070	1.8
東部	74,381	7,801	17,603	25,404	34.2	198	659	857	3.37	785	91.6	347	366	53	19	438	0.075	2.2
中部	37,667	6,837	4,537	11,374	30.2	248	215	463	4.07	394	85.1	173	188	26	7	221	0.062	1.5
西部	77,084	9,708	8,185	17,893	23.2	344	459	803	4.49	708	88.2	300	371	25	12	408	0.067	1.5

(3) 令和元年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1,412、転移性151） 1,626例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総計 1,562計

1,638例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	昭和 62年	昭和 63年	平成 元年	平成 2年	平成 3年	平成 4年	平成 5年	平成 6年	平成 7年	平成 8年	平成 9年	平成 10年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38	53	40
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4	2	7
合計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42	55	47

	平成 11年	平成 12年	平成 13年	平成 14年	平成 15年	平成 16年	平成 17年	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年
原発性肺癌	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41	65
転移性肺腫瘍	7	6	7	6	3	2	5	6	7	3	8	4
合計	48	48	37	54	68	52	62	68	55	55	49	69

	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	合計
原発性肺癌	55	49	58	74	47	46	50	49	59	1,471
転移性肺腫瘍	6	5	4	7	1	4	3	3	4	155
合計	61	54	62	81	48	50	53	52	63	1,626

2) 原発性肺がん診断方法

				〔令和元年度集計〕		
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,364例(92.7%)	Dのみ	0例	} 59例(100.0%)
	Eのみ	1,119例		Eのみ	59例	
				(E1:31例、E2:7例、E:21例)		
細 胞 診	Dのみ	23例	} 58例(4.0%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)
	Eのみ	35例		Eのみ	0例	
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 46例(3.1%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)
	D + E	9例		D + E	0例	
	E + D	6例		E + D	0例	
	E + E	21例		E + E	0例	
	不明	3例		3例(0.2%)	不明	
計 1,471例				計 59例		

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 元	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
H26	53,208	2,303(4.33%)	2,021(87.8%)	74	139
H27	55,045	2,092(3.80%)	1,877(89.7%)	47	85
H28	54,679	1,864(3.41%)	1,680(90.1%)	46	84
H29	54,776	1,909(3.49%)	1,709(89.5%)	50	91
H30	55,050	2,023(3.67%)	1,839(90.9%)	49	89
R 元	54,671	2,123(3.88%)	1,887(88.9%)	59	106
計	1,854,624	36,711(1.98%)	32,035(87.3%)	1,471	79

4) 原発性肺癌 (1,471例)

(1) 年齢・性別

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	89例	6.1
60～69歳	440	29.9
70～79歳	673	45.7
80～	269	18.3
計	1,471	100.0

平均年齢=72.2

男：女=873例：597例

(不明：1例)

[R元年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	2例	3.4
60～69歳	12	20.3
70～79歳	27	45.8
80～	18	30.5
計	59	100.0

平均年齢=74.6

男：女=35例：24例

(不明：0例)

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類 (第7版+第8版)

臨床病期	(%)
Occult	2例
0	0
I A	619(42.1)
I B	228
II A	56
II B	74
III A	169
III B	90
III C	2
IV	195
不明	36
計	1,471

[R元年度集計] (第8版)

臨床病期	(%)
Occult	0例
0	0
I A	21(35.6)
I B	11
II A	1
II B	4
III A	6
III B	5
III C	1
IV	9
不明	1
計	59

32(54.2%)
I期肺癌

多発癌は病期の
進んだ方を採用

b. 組織型

組織型	(%)
扁平上皮癌	310例
腺癌	934(63.4)
大細胞癌	19
小細胞癌	88
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	108
計	1,474*

[H元年度集計]

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	47(78.3)
大細胞癌	1
小細胞癌	4
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	2
計	60**

* 3例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌、腺癌と腺癌(**)の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

(922例、手術率：62.7%)

[R元年度集計]

a. 臨床病期、術後病期

原発性肺癌の手術症例 (36例、手術率：61.0%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
0	0(0.0)	0	2(2.1)
I A	548(59.4)	I A	473(51.3)
I B	187	I B	202
II A	35	II A	42
II B	46	II B	62
III A	79	III A	89
III B	15	III B	24
III C	0	III C	0
IV	9	IV	21
不明	1	不明	5
計	922	計	922

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
0	0	0	1
I A*	20(55.6)	I A**	12(33.3)
I B	10	I B	8
II A	1	II A	2
II B	3	II B	9
III A	2	III A	2
III B	0	III B	0
III C	0	III C	0
IV	0	IV	0
不明	0	不明	2
計	36	計	36

21
(58.3%)

IAの内訳…*臨床病期 IA1：2例、IA2：8例、IA3：10例

**術後病期 IA1：3例、IA2：5例、IA3：4

b. 組織型分類

〔R元年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	173例
腺癌	691(74.9)
大細胞癌	15
小細胞癌	11
腺扁平上皮癌	14
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	16
計	922

組織型	(%)
扁平上皮癌	2例
腺癌	32(88.9)
大細胞癌	1
小細胞癌	1
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	0
不明	0
計	36

(4) 腫瘍径 (比較のため第7版で記載)

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)
0~10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2
11~20	9 (22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(29.2)	21(40.4)	10
21~30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6	13(31.7)
31~40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8
41~50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6
51~	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	最高71mm	68mm

腫瘍径 (mm)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)	H26年度 (%)	H27年度 (%)	H28年度 (%)	H29年度 (%)	H30年度 (%)	R元年度 (%)	第7版
0~10	2	1	4	3	3	0	1	8	1	1	1
11~20	13	16(29.1)	14(28.6)	16	28(37.8)	16(34.0)	14(30.4)	15(30.0)	14(30.6)	13	14
21~30	26 (40)	16(29.1)	13	20(34.5)	21	8	10	15	15	16(27.1)	15
31~40	15	6	8	8	7	14	13	2	5	16(27.1)	5
41~50	6	4	6	5	6	6	5	2	7	8	7
51~	2	11	2	6	5	3	2	8	5	2	5
不明	1	1	2	0	4	0	1	0	2	3	2
計	65	55	49	58	74	47	46	50	49	59	49
平均	29.4mm	33.2mm	28.4mm	28.3mm	26.7mm	30.4mm	28.6mm	32.2mm	32.1mm	29.5mm	32.1mm
	80mm	90mm	100mm	60mm	70mm	70mm	56mm	83mm	115mm	58mm	

5) 転移性肺腫瘍 (155例)

大腸癌：34例 乳癌：20例 前立腺癌：14例 甲状腺癌：12例 腎臓癌：11例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管癌：4例 胆のう癌：4例 膀胱癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例
 卵巣癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺癌：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 卵管肉腫：1例 腹膜癌：1例 不明：8例

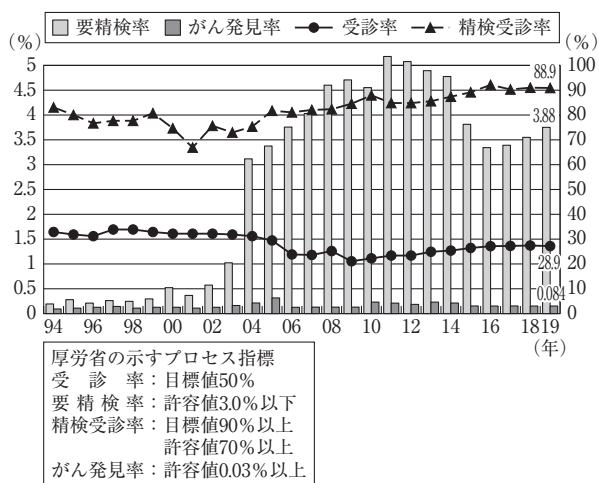
〔R元年度集計〕 (4例)

胃癌：1例、膀胱癌：1例、子宮肉腫：1例、腹膜癌：1例

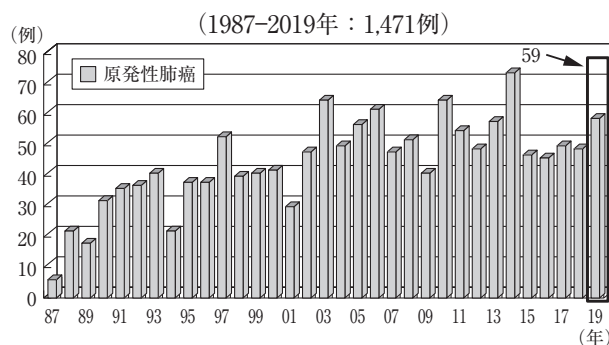
6) 令和元年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	車 検 診	施 設 検 診
受診者数	24,346	30,325
要精検数	790 (3.24) 東部：198 (2.54) 中部：248 (3.63) 西部：344 (3.54)	1,333 (4.39) 東部：659 (3.74) 中部：215 (4.74) 西部：459 (5.61)
確定者数	27名 (0.111) (東：11、中：6、西：10)	32名 (0.106) (東：17、中：8、西：7)
発見方法	E1：15、E2：4、E：8	E1：16、E2：3、E：13
年 齢	74.8歳	74.6歳
性 差	男性：16名 女性：11名	男性：19名 女性：13名
臨床病期	I A 9名、I B 5名、 II A 1名、II B 4名、 III A 3名、III B 2名、IV 3名	I A 12名、I B 6名、 II A 0名、II B 1名、 III A 2名、III B 3名、III C 1名、 IV 6名、不明1名
組 織 型	扁平上皮癌 3名、腺癌21名、 大細胞癌 1名、小細胞癌 1名、 不明 0名	扁平上皮癌 3名、腺癌25名、 大細胞癌 0名、小細胞癌 3名、 不明 1名
手 術	あり19名、なし8名	あり17名、なし15名
腫 瘍 径	28.3mm	30.6mm

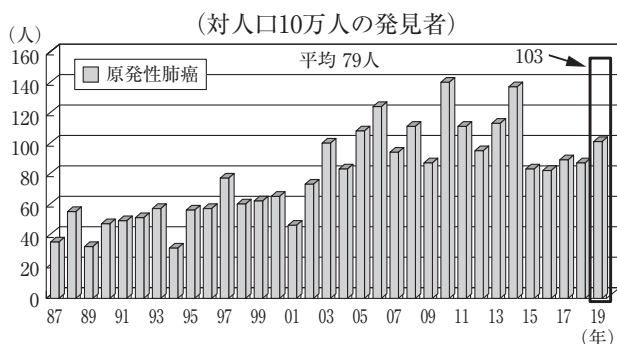
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



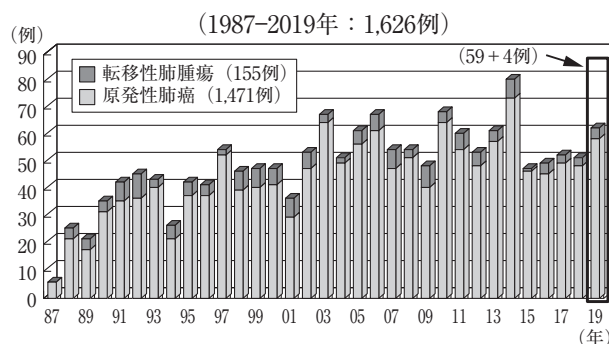
8) 検診で発見された原発性肺癌の推移



9) 検診で発見された原発性肺癌の推移

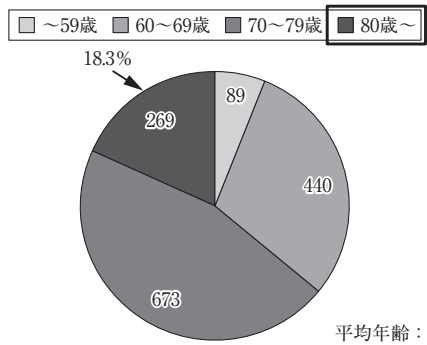


10) 検診で発見された肺癌と転移性肺腫瘍の推移

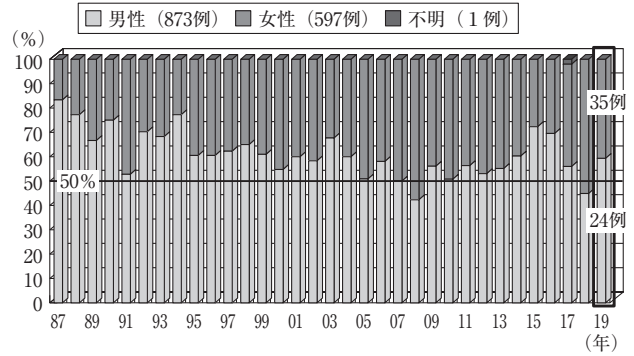


11) 検診発見肺癌の年齢

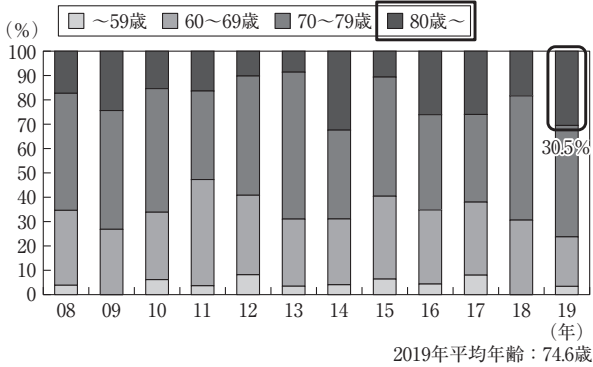
(1987-2019年：1,471例)



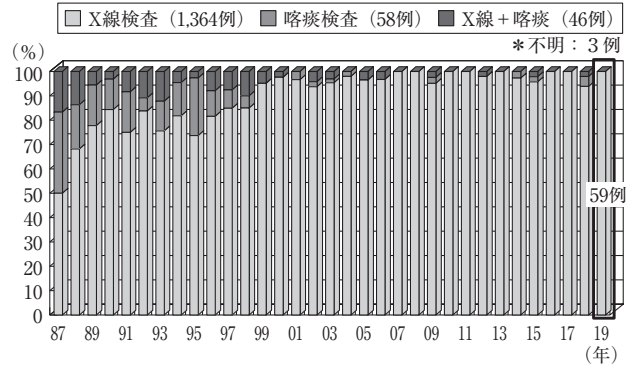
検診発見肺癌の性差



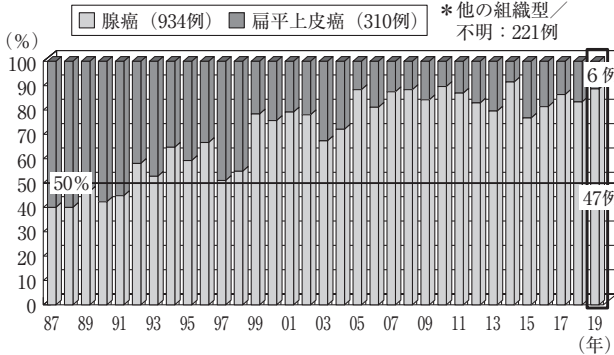
検診発見肺癌の年齢分布（年次推移）



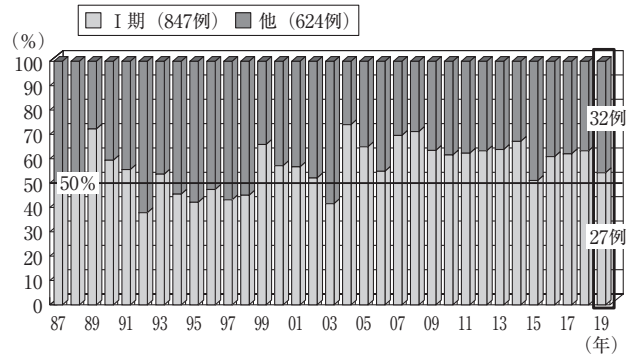
検診発見肺癌の発見動機



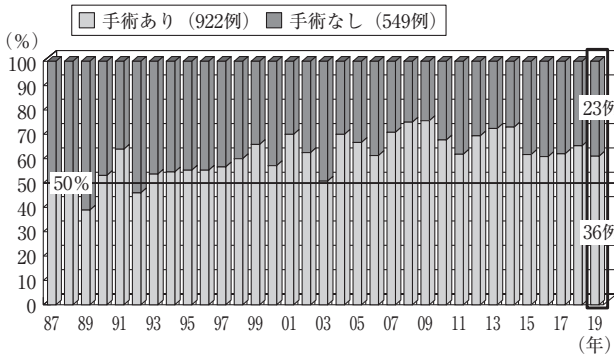
検診発見肺癌の組織型



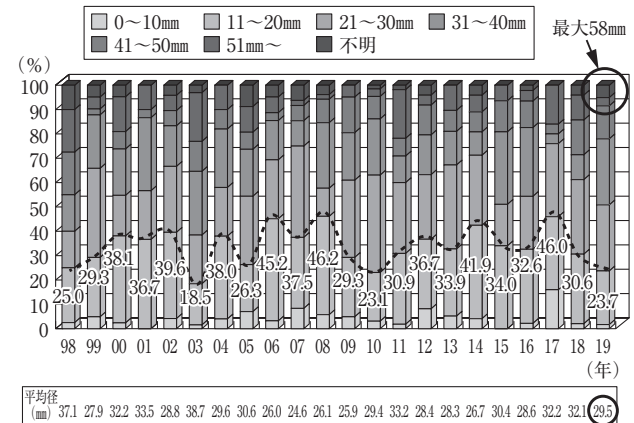
検診発見肺癌の臨床病期 I 期肺癌の割合



検診発見肺癌の手術の有無



検診発見肺癌の腫瘍径 (1998-2019年：1,471例)



4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

令和元年度対象者数115,469人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）、受診者数19,228人、受診率16.7%で、受診率は前年度より0.2ポイント増加した。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法は40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数44,660人、受診者数13,694人、受診率30.6%であった。

要精検者数1,097人、要精検率5.71%で前年度より0.27ポイント減少した。精検受診者数1,034人、精検受診率は94.3%で、平成30年度より0.3ポイント減であった。

精検の結果、乳がん73人、がん発見率（がん/受診者数）0.38%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）6.65%であった。がん疑いは3人発見された。平成30年度に比べ、がん発見率は0.07ポイント、陽性反応適中度は1.39ポイント増加した。

検診受診率は近年16～17%台で推移しており、大きな変動は認めていない。マンモグラフィ単独検診での要精検率、精検受診率、検診発見がん率、陽性反応適中度のすべてにおいて国が示す許容値を満たしており、特に陽性反応適中度は良好な数値を示している。受診率は国の目標値と隔たりがあるが、職場や個人での検診受診状況の把握が必要であると考えられる。

〈検診機関別受診結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）
車 検 診 （保健事業団・中国労働衛生協会）	8,222 （42.8%）	491	5.97
施 設 検 診 （病院・診療所）	11,006 （57.2%）	606	5.51
計	19,228 （100%）	1,097	5.71

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 （%）	が ん	がん発見率 （%）
車 検 診	455	92.7	27	0.33
施 設 検 診	579	95.5	46	0.42
計	1,034	94.3	73	0.38

〈圏域別結果〉

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,081	7,856	17.43	394	5.02	373	94.7	33	0.42
中 部	22,648	3,519	15.54	272	7.73	253	93.0	8	0.23
西 部	47,740	7,853	16.45	431	5.49	408	94.7	32	0.41
計	115,469	19,228	16.65	1,097	5.71	1,034	94.3	73	0.38

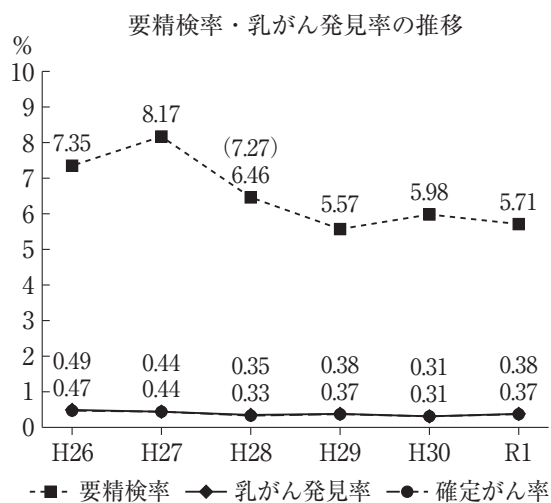
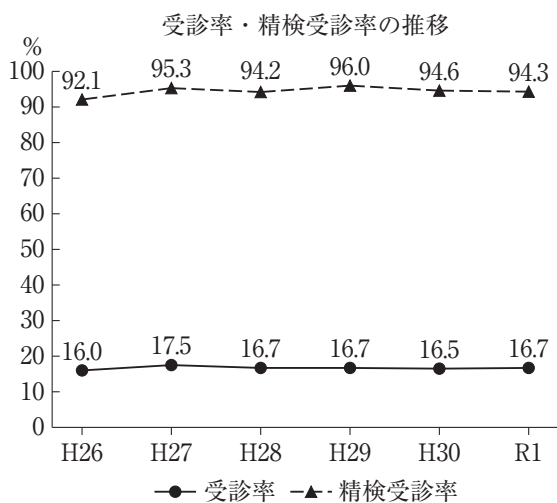
2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

令和元年度の確定乳がんは73例で、前年度より13例増加した。確定乳癌の平均年齢は64.3歳で、60歳代の患者が最も多かった。早期癌は68.5%を占め、前年度より6.8%上昇した。しかし、ステージ4の症例も3例あり、経年受診者からの発見もあった。これらの症例の詳細を検討していく必要がある。術式は乳房温存手術の割合が減少傾向であり、前年度の43%から34.2%まで減少していた。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成28年度・ 鳥取市分含	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
一次検診	対象者数(人) A	118,248	118,248	115,469	115,469	115,469	115,469	115,469
	受診者数(人) B	18,959	20,666	13,226	19,245	19,317	19,075	19,228
	受診率(%) C = B/A	30.5	32.3	27.6	33.1	32.3	31.9	
一次検診結果	異常認めず(人) D	17,566	18,977	12,265	18,001	18,242	17,935	18,131
	要精検者数(人) E	1,393	1,689	961	1,244	1,075	1,140	1,097
	要精検率(%) F = E/B 指標 11.0%以下	7.35	8.17	7.27	6.46	5.57	5.98	5.71
精密検査	精検受診者数(人) G	1,283	1,609	896	1,172	1,032	1,078	1,034
	精検受診率(%) H = G/E	92.1	95.3	93.2	94.2	96.0	94.6	94.3
精密検査結果	乳がんの者(人) I	92(5)	91(3)	49(2)	67(3)	74(3)	60(1)	73(0)
	乳がん発見率(%) J = I/B 指標 0.23%以上	0.49	0.44	0.37	0.35	0.38	0.31	0.38
	陽性反応適中度(%) K = I/E 指標 2.5%以上	6.60	5.39	5.10	5.39	6.88	5.26	6.65
確定調査結果	確定がん数(人) L	90	90	45	63	72	60	73
	確定がん率(%) M = L/B	0.47	0.44	0.34	0.33	0.37	0.31	0.37

- * 1 精密検査結果欄の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- * 5 平成30年度報告(平成29年度実績)から、検診方法がマンモグラフィのみとなった



(2) 令和元年度乳がん検診(マンモグラフィのみの受診者)

1) 一次検診結果(年齢階級別)

年齢	対象者数 a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40~44歳	3,950	2,196	55.6	186	2,010	8.47
45~49歳	3,400	1,844	54.2	178	1,666	9.65
50~54歳	3,868	2,021	52.2	121	1,900	5.99
55~59歳	5,767	1,866	32.4	116	1,750	6.22
60~64歳	11,161	2,932	26.3	123	2,809	4.20
65~69歳	16,514	2,835	17.2	126	2,709	4.44
70~74歳	15,344	3,038	19.8	140	2,898	4.61
75~79歳	16,002	1,515	9.5	70	1,445	4.62
80歳以上	39,463	981	2.5	37	944	3.77
計	115,469	19,228	16.7	1,097	18,131	5.71

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f	精密検査 受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適 中 度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	174	93.5	75	94	0	5	0.23	2.69
45～49歳	166	93.3	66	95	0	5	0.27	2.81
50～54歳	119	98.3	53	60	0	6	0.30	4.96
55～59歳	110	94.8	50	52	0	8	0.43	6.90
60～64歳	117	95.1	56	50	0	11	0.38	8.94
65～69歳	121	96.0	55	50	0	16	0.56	12.70
70～74歳	132	94.3	63	59	0	10	0.33	7.14
75～79歳	64	91.4	31	25	0	8	0.53	11.43
80歳以上	31	83.8	20	7	0	4	0.41	10.81
計	1,034	94.3	469	492	0	73	0.38	6.65

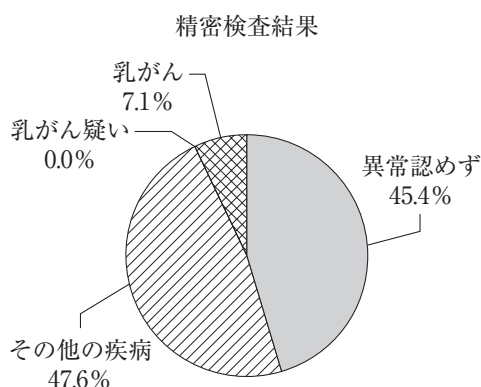
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

検診機関	一次検診 受診者数 a'	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
保 健 事 業 団	8,024	479	7,545	5.97
中国労働衛生協会	198	12	186	6.06
病 院	9,160	479	8,681	5.23
診 療 所	1,846	127	1,719	6.88
計	19,228	1,097	18,131	5.71

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査 受診者数 d'	精密検査 受診率 (%) f' = d' / b'	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) h' = g' / a'	陽性反応 適 中 度 (%) I' = h' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん g'		
保 健 事 業 団	444	92.69	224	195	0	25	0.31	5.22
中国労働衛生協会	11	91.7	2	7	0	2	1.01	16.67
病 院	457	95.41	189	230	0	38	0.41	7.93
診 療 所	122	96.06	54	60	0	8	0.43	6.30
計	1,034	94.3	469	492	0	73	0.38	6.65



4) 令和元年度乳がん検診受診状況（マンモグラフィのみの受診者）

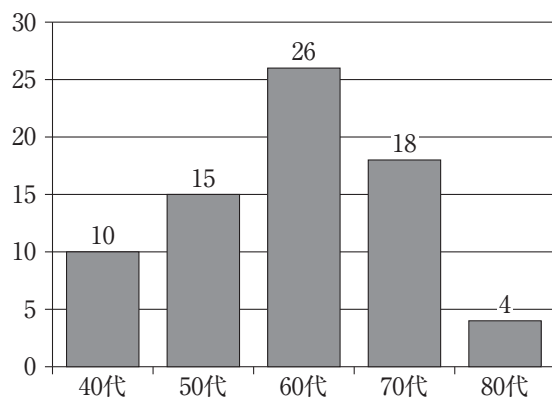
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員						がん発見率 (%) Q = O/D	陽性反応 適中度 (%) R = O/H				
	車検診		施設検診		計		要精検率 (%) I = H/D		精検受診率 (%) K = J/H		異常認めず L		その他の疾病 M				がん N		有所見者 P = M+N+O	
	A	B	C	D = B + C	E = D/A	F	G	H = F + G	I = H/D	J	K = J/H	L	M	N			O	P = M+N+O	Q = O/D	R = O/H
鳥取市	35,981	2,585	3,466	6,051	16.8	160	142	302	4.99	287	95.0	127	133	0	27	160	0.446	8.9		
米子市	27,725	572	3,477	4,049	14.6	38	219	257	6.35	251	97.7	91	138	0	22	160	0.543	8.6		
倉吉市	10,453	498	751	1,249	11.9	31	78	109	8.73	101	92.7	54	43	0	4	47	0.320	3.7		
境港市	6,910	427	994	1,421	20.6	27	48	75	5.28	72	96.0	24	43	0	5	48	0.352	6.7		
岩美町	2,704	178	344	522	19.3	14	14	28	5.36	27	96.4	10	14	0	3	17	0.575	10.7		
八頭町	3,681	631	144	775	21.1	25	12	37	4.77	34	91.9	22	11	0	1	12	0.129	2.7		
若桜町	908	173	21	194	21.4	8	2	10	5.15	9	90.0	6	3	0	0	3	0.000	0.0		
智頭町	1,807	119	195	314	17.4	8	9	17	5.41	16	94.1	9	5	0	2	7	0.637	11.8		
湯梨浜町	3,347	558	162	720	21.5	44	10	54	7.50	48	88.9	29	18	0	1	19	0.139	1.9		
三朝町	1,544	141	35	176	11.4	9	4	13	7.39	13	100.0	4	9	0	0	9	0.000	0.0		
北栄町	3,260	515	116	631	19.4	27	13	40	6.34	38	95.0	23	13	0	2	15	0.317	5.0		
琴浦町	4,044	587	156	743	18.4	41	15	56	7.54	53	94.6	26	26	0	1	27	0.135	1.8		
南部町	2,416	277	420	697	28.8	19	12	31	4.45	27	87.1	15	10	0	2	12	0.287	6.5		
伯耆町	2,584	184	206	390	15.1	8	5	13	3.33	10	76.9	6	4	0	0	4	0.000	0.0		
日吉津村	649	66	79	145	22.3	1	4	5	3.45	3	60.0	0	3	0	0	3	0.000	0.0		
大山町	4,109	368	197	565	13.8	15	10	25	4.42	22	88.0	9	12	0	1	13	0.177	4.0		
日南町	1,521	177	39	216	14.2	9	2	11	5.09	10	90.9	7	3	0	0	3	0.000	0.0		
日野町	962	166	0	166	17.3	7	0	7	4.22	6	85.7	4	2	0	0	2	0.000	0.0		
江府町	864	0	204	204	23.6	0	7	7	3.43	7	100.0	3	2	0	2	4	0.980	28.6		
合計	115,469	8,222	11,006	19,228	16.7	491	606	1,097	5.71	1,034	94.3	469	492	0	73	565	0.380	6.7		
東部	45,081	3,686	4,170	7,856	17.4	215	179	394	5.02	373	94.7	174	166	0	33	199	0.420	8.4		
中部	22,648	2,299	1,220	3,519	15.5	152	120	272	7.73	253	93.0	136	109	0	8	117	0.227	2.9		
西部	47,740	2,237	5,616	7,853	16.4	124	307	431	5.49	408	94.7	159	217	0	32	249	0.407	7.4		

(3) 令和元年度検診発見乳がん追跡調査結果

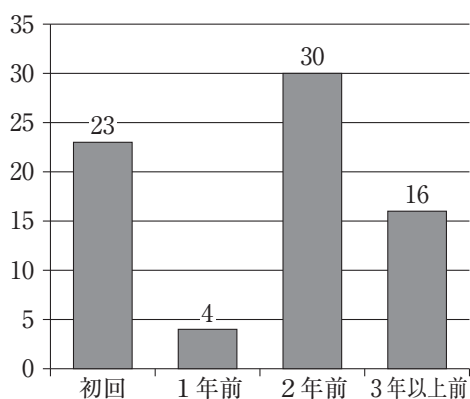
1) 確定乳癌73例

東部地区(35例)：鳥取市29例 岩美町 3例 八頭町 1例 智頭町 2例
中部地区(8例)：倉吉市 4例 北栄町 2例 湯梨浜町 1例 琴浦町 1例
西部地区(30例)：米子市22例 境港市 3例 大山町 1例 南部町 2例 江府町 2例

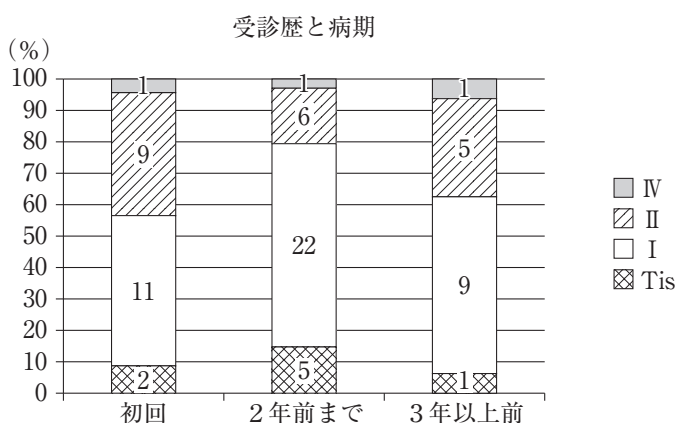
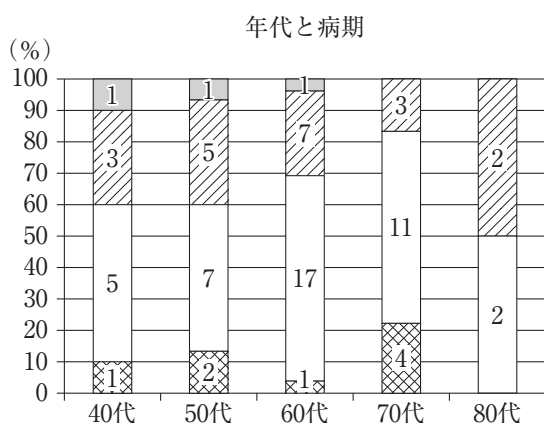
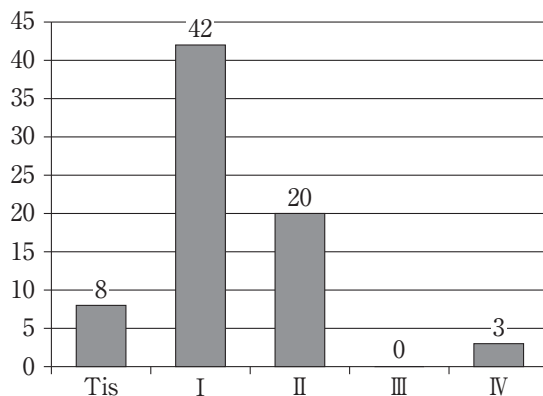
2) 年齢構成



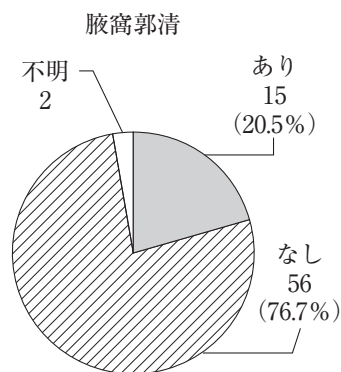
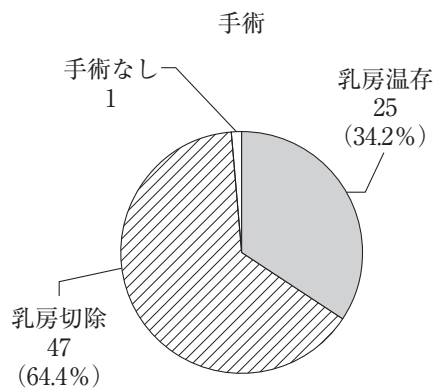
3) 検診歴



4) 病期



5) 治療



まとめ

1. 令和元年度の乳癌確定症例は73例であった。前年度の60例に比較して増加していたが、例年並みであった。地域ごとの患者数も例年通りであった。
2. 発見癌患者の平均年齢は64.3歳で前年度（62.5歳）とほぼ同様であり、60代の患者が多かった。一般的な乳癌罹患数の多い年代より平均年齢は高齢である。
3. 検診受診歴に関しても前年度と同様であった。
4. 病期に関しては、68.5%が早期癌症例であり、前年度の61.7%より増加した。しかし、Stage IV症例が3例発見されており、経年受診者からの発見も認めた。
5. 術式に関しては、乳房部分切除（乳房温存）が減少傾向であり、前年度の43%から今年度は34.2%まで減少していた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

令和元年度の対象者数は189,132人（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）で、うち受診者数は57,476人（前年度比485人増）であった。受診率は30.4%で前年度比0.3ポイントの増加となった。受診者数、受診率ともに、平成20年度から平成27年度まで上昇傾向が続いていたのが、平成27年度をピークに減少傾向となっていたが、令和元年度は再度増加に転じた。

また、国の地域保健・健康増進事業報告の受診率の算定方法が40歳から69歳までとしていることを受けて、参考までに同様に算定したところ、対象者数76,814人、受診者数27,903人、受診率36.3%で、全国平均（平成30年度）受診率8.0%に比較し高い。

一次検査による要精検者数は5,146人で要精検率は9.0%（前年度比0.7ポイント増）であった。要精検者のうち精密検査を受診したのは4,009人で精検受診率は77.9%（前年度比同率）であった。また、精検の結果大腸がんであったのが190人（前年度20人増）で、がん発見率は0.33%（前年度比0.03ポイント増）、陽性反応的中度は3.7%（前年度比0.1ポイント増）であった。要精検率は国が示す許容値を上回っているが、がん発見率、陽性反応的中度は国の許容値を満たしており、例年と同様に精度は保たれていると考えられる。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（％）			
			計	東部	中部	西部
地域検診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	20,964 (36.5%)	1,519	7.2	7.2	7.0	7.6
施設検診 (病院・診療所)	36,512 (63.5%)	3,627	9.9	8.6	11.5	10.8
計	57,476 (100%)	5,146	9.0	8.2	8.7	10.0

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率（％）			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,183	77.9	49	0.234	0.223	0.153	0.351
施 設 検 診	2,826	77.9	141	0.386	0.345	0.401	0.425
計	4,009	77.9	190	0.331	0.305	0.245	0.405

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	581	7.2	453	78.0	0	18	0.223
中 部	504	7.0	392	77.8	0	11	0.153
西 部	434	7.6	338	77.9	1	20	0.351
計	1,519	7.2	1,183	77.9	1	49	0.234

(2) 施設検診

区 分	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	1,427	8.6	1,142	80.0	0	57	0.345
中 部	489	11.5	364	74.4	3	17	0.401
西 部	1,711	10.8	1,320	77.1	2	67	0.425
計	3,627	9.9	2,826	77.9	5	141	0.386

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い196例について確定調査を行った結果、確定癌190例（地域検診47例、施設検診143例）、腺腫2例、その他4例であった。そのうち早期がんは127例、早期癌率は66.8%であった。平成30年度に比べ確定癌が20例増加し、そのうち早期癌率が4.4ポイントも増えている。

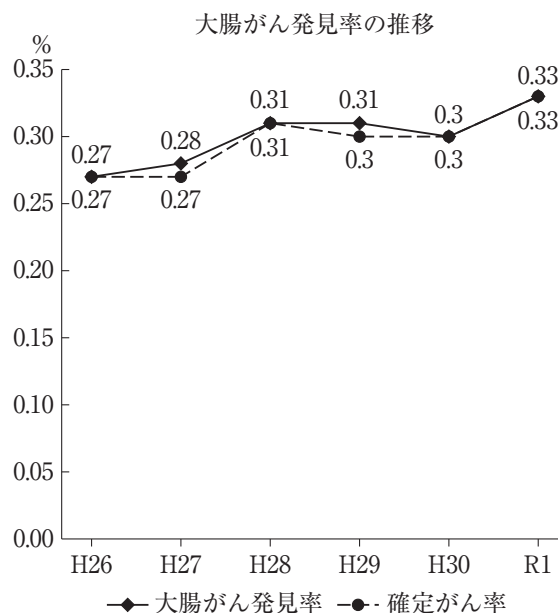
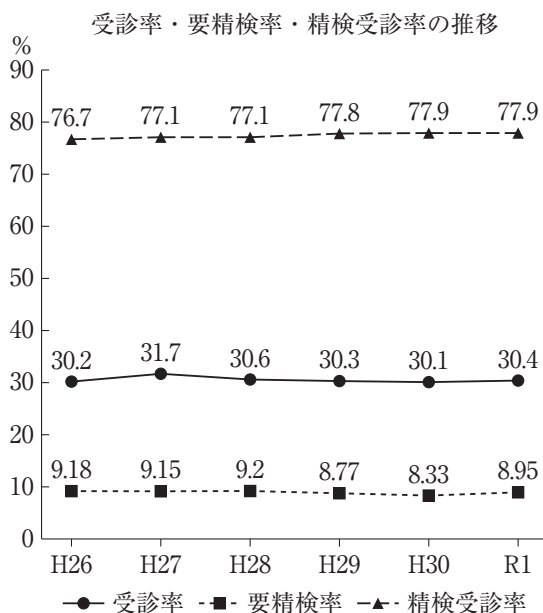
調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様の傾向であった。

- (1) 性及び年齢では男女とも例年通り65歳以上から癌が多く発見され、70歳代が一番多かった。平成30年度は40歳代から癌が1例発見されたが、令和元年度は5例と増加であった。
- (2) 部位では「R」と「S」が61.5%で、肉眼分類では「2」26.8%であった。早期癌128例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が49.2%であった。
- (3) 深達度「m」が42.6%、「sm」が24.2%で、早期癌率66.8%であった。
- (4) Dukes分類は「A」が61.6%、組織型分類は「Well」が62.1%、「Mod」が33.7%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が25例（13.2%）、内視鏡下手術71例（37.4%）、内視鏡治療は92例（48.4%）であった。早期癌が前年度より多く発見されていることもあり、がんの内視鏡治療の割合が前年度47.1%に比べ1.3ポイント増であった。
- (6) 逐年検診発見進行癌は20例（東部8例、西部12例）であった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	190,556	190,556	189,132	189,132	189,132	189,132
	受 診 者 数(人) B	57,502	60,329	57,917	57,352	56,991	57,476
	受 診 率(%) C = B/A	30.2	31.7	30.6	30.3	30.1	30.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	52,222	54,810	52,596	52,323	52,245	52,330
	要 精 検 者 数(人) E	5,280	5,519	5,321	5,029	4,746	5,146
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	9.18	9.15	9.20	8.77	8.33	8.95
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	4,049	4,253	4,102	3,911	3,696	4,009
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	76.7	77.1	77.1	77.8	77.9	77.9
精 密 検 査 結 果	大 腸 がん の 者(人) I	156(10)	166(14)	177(14)	175(7)	170(13)	190(6)
	大 腸 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.27	0.28	0.31	0.31	0.30	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.0	3.0	3.3	3.5	3.6	3.7
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	155	165	181	171	170	190
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.27	0.27	0.31	0.30	0.30	0.33

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 令和元年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 a		一次検診 受診者数 b		受診率 (%) C = b / a			一次検診結果				要精検率 (%) e = d / b		
								要精検者数 d		異常認めず				
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,702	3,950	876	1,716	32.4	43.4	39.0	47	122	829	1,594	5.4	7.1	6.5
45～49歳	2,391	3,400	842	1,639	35.2	48.2	42.8	50	80	792	1,559	5.9	4.9	5.2
50～54歳	2,494	3,868	763	1,720	30.6	44.5	39.0	53	100	710	1,620	6.9	5.8	6.2
55～59歳	3,464	5,767	924	2,222	26.7	38.5	34.1	64	130	860	2,092	6.9	5.9	6.2
60～64歳	7,789	11,161	2,187	4,113	28.1	36.9	33.2	181	267	2,006	3,846	8.3	6.5	7.1
65～69歳	13,314	16,514	4,622	6,279	34.7	38.0	36.5	426	441	4,196	5,838	9.2	7.0	8.0
70～74歳	11,961	15,344	5,424	7,099	45.3	46.3	45.9	577	576	4,847	6,523	10.6	8.1	9.2
75～79歳	11,039	16,002	3,726	5,116	33.8	32.0	32.7	457	476	3,269	4,640	12.3	9.3	10.6
80歳以上	18,509	39,463	3,454	4,754	18.7	12.0	14.2	532	567	2,922	4,187	15.4	11.9	13.4
計	73,663	115,469	22,818	34,658	31.0	30.0	30.4	2,387	2,759	20,431	31,899	10.5	8.0	9.0
合 計	189,132		57,476		30.4			5,146		52,330		9.0		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 f		精密検査受診率 (%) g = f / d			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) i = h / b			陽性反応適中度 (%) j = h / d		
						異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん h							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	37	91	78.7	74.6	75.7	13	57	24	30	0	0	0	4	0.000	0.233	0.154	0.0	3.3	2.4
45～49歳	37	61	74.0	76.3	75.4	12	39	25	21	0	0	0	1	0.000	0.061	0.040	0.0	1.3	0.8
50～54歳	42	76	79.2	76.0	77.1	10	37	30	34	0	0	2	5	0.262	0.291	0.282	3.8	5.0	4.6
55～59歳	48	104	75.0	80.0	78.4	9	43	37	56	0	0	2	5	0.216	0.225	0.223	3.1	3.8	3.6
60～64歳	132	209	72.9	78.3	76.1	22	94	100	110	0	1	10	4	0.457	0.097	0.222	5.5	1.5	3.1
65～69歳	326	365	76.5	82.8	79.7	42	145	260	205	1	0	23	15	0.498	0.239	0.349	5.4	3.4	4.4
70～74歳	449	463	77.8	80.4	79.1	70	151	346	294	1	0	32	18	0.590	0.254	0.399	5.5	3.1	4.3
75～79歳	375	406	82.1	85.3	83.7	76	127	280	267	0	1	19	11	0.510	0.215	0.339	4.2	2.3	3.2
80歳以上	375	413	70.5	72.8	71.7	66	112	284	285	2	0	23	16	0.666	0.337	0.475	4.3	2.8	3.5
計	1,821	2,188	76.3	79.3	77.9	320	805	1,386	1,302	4	2	111	79	0.486	0.228	0.331	4.7	2.9	3.7
合計	4,009		77.9			1,125		2,688		6		190		0.331			3.7		

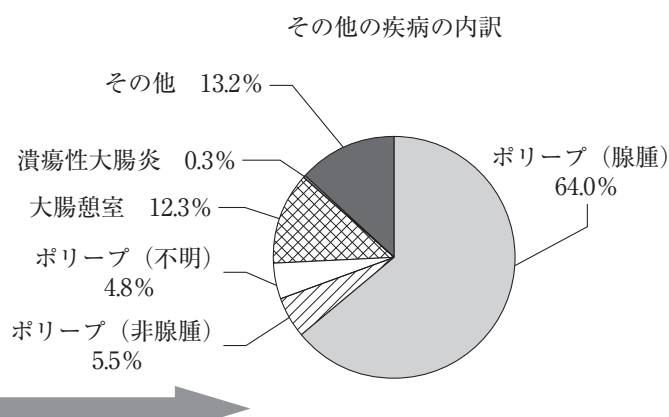
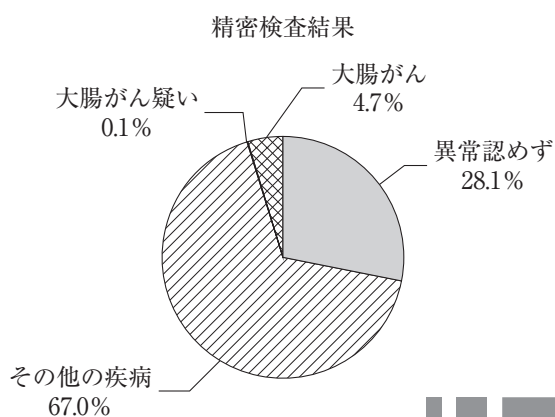
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	7,659	12,429	674	801	6,985	11,628	8.8	6.4	7.3
中国労働衛生協会	292	584	16	28	276	556	5.5	4.8	5.0
地域検診小計	7,951	13,013	690	829	7,261	12,184	8.7	6.4	7.2
病院	4,457	5,966	521	513	3,936	5,453	11.7	8.6	9.9
診療所	10,410	15,679	1,176	1,417	9,234	14,262	11.3	9.0	9.9
施設検診小計	14,867	21,645	1,697	1,930	13,170	19,715	11.4	8.9	9.9
計	22,818	34,658	2,387	2,759	20,431	31,899	10.5	8.0	9.0
合計	57,476		5,146		52,330		9.0		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数 d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
	d'		e' = d' / b'			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		g' = f' / a'			h' = f' / b'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	517	628	76.7	78.4	77.6	100	235	392	369	0	1	25	23	0.326	0.185	0.239	3.7	3.4	3.3
中国労働衛生協会	15	23	93.8	82.1	86.4	2	13	13	9	0	0	0	1	0.000	0.171	0.114	0.0	6.3	2.3
地域検診小計	532	651	77.1	78.5	77.9	102	248	405	378	0	1	25	24	0.314	0.184	0.234	3.6	2.9	3.2
病院	379	377	72.7	73.5	73.1	61	150	296	218	1	1	21	8	0.471	0.134	0.278	4.0	1.5	2.8
診療所	910	1,160	77.4	81.9	79.8	157	407	685	706	3	0	65	47	0.624	0.300	0.429	5.5	4.0	4.3
施設検診小計	1,289	1,537	76.0	79.6	77.9	218	557	981	924	4	1	86	55	0.578	0.254	0.386	5.1	2.8	3.9
計	1,821	2,188	76.3	79.3	77.9	320	805	1,386	1,302	4	2	111	79	0.486	0.228	0.331	4.7	3.3	3.7
合計	4,009		77.9			1,125		2,688		6		190		0.331			3.7		



4) 令和元年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員							がん発見率 (%) Q=O/D R=O/H		
	地域検診		施設検診		計	受診率 (%) E=D/A	地域検診	施設検診	計	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精 検 受診率 (%) K=J/H	異 認めず L	常 その他の 疾患 M	がん疑い が N		人 O	有所見者 P=M+N+O
	A	B	C	D=B+C														
鳥取市	59,003	4,116	14,376	18,492	31.3	277	1,237	1,514	8.2	1,220	80.6	330	833	0	57	890	0.308	3.8
米子市	44,119	0	11,768	11,768	26.7	0	1,256	1,256	10.7	985	78.4	304	639	0	42	681	0.357	3.3
倉吉市	17,150	1,022	2,694	3,716	21.7	61	284	345	9.3	262	75.9	75	171	1	15	187	0.404	4.3
境港市	11,206	900	2,455	3,355	29.9	66	257	323	9.6	268	83.0	81	169	1	17	187	0.507	5.3
岩美町	4,582	1,201	434	1,635	35.7	92	34	126	7.7	102	81.0	27	70	0	5	75	0.306	4.0
八頭町	6,230	2,112	667	2,779	44.6	154	67	221	8.0	155	70.1	34	112	0	9	121	0.324	4.1
若桜町	1,539	199	449	648	42.1	15	42	57	8.8	46	80.7	7	38	0	1	39	0.154	1.8
智頭町	3,027	441	581	1,022	33.8	43	47	90	8.8	72	80.0	18	51	0	3	54	0.294	3.3
湯梨浜町	5,676	1,447	740	2,187	38.5	113	96	209	9.6	157	75.1	41	112	2	2	116	0.091	1.0
三朝町	2,574	681	200	881	34.2	43	20	63	7.2	45	71.4	12	32	0	1	33	0.114	1.6
北栄町	5,516	2,418	267	2,685	48.7	179	33	212	7.9	169	79.7	48	114	0	7	121	0.261	3.3
琴浦町	6,751	1,635	334	1,969	29.2	108	56	164	8.3	123	75.0	20	100	0	3	103	0.152	1.8
南部町	4,011	386	1,262	1,648	41.1	36	159	195	11.8	126	64.6	25	90	1	10	101	0.607	5.1
伯耆町	4,257	1,175	0	1,175	27.6	93	0	93	7.9	73	78.5	33	36	0	4	40	0.340	4.3
日吉津村	1,008	273	263	536	53.2	22	37	59	11.0	34	57.6	13	20	0	1	21	0.187	1.7
大山町	6,967	1,390	0	1,390	20.0	98	0	98	7.1	86	87.8	26	54	0	6	60	0.432	6.1
日南町	2,551	629	22	651	25.5	57	2	59	9.1	44	74.6	14	25	1	4	30	0.614	6.8
日野町	1,553	361	0	361	23.2	28	0	28	7.8	10	35.7	2	6	0	2	8	0.554	7.1
江府町	1,412	578	0	578	40.9	34	0	34	5.9	32	94.1	15	16	0	1	17	0.173	2.9
合計	189,132	20,964	36,512	57,476	30.4	1,519	3,627	5,146	9.0	4,009	77.9	1,125	2,688	6	190	2,884	0.331	3.7
東部	74,381	8,069	16,507	24,576	33.0	581	1,427	2,008	8.2	1,595	79.4	416	1,104	0	75	1,179	0.305	3.7
中部	37,667	7,203	4,235	11,438	30.4	504	489	993	8.7	756	76.1	196	529	3	28	560	0.245	2.8
西部	77,084	5,692	15,770	21,462	27.8	434	1,711	2,145	10.0	1,658	77.3	513	1,055	3	87	1,145	0.405	4.1

(3) 令和元年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	18	11	21	50	57	20	69	146	75	31	90	196
確定癌	17	11	19	47	57	20	66	143	74	31	85	190
腺腫	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2
その他	1	0	1	2	0	0	2	2	1	0	3	4

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	1	0	0	0	2	9	6	3	3	24
	女	1	0	2	0	2	8	4	2	4	23
	計	2	0	2	0	4	17	10	5	7	47
施設	男	0	0	2	2	8	17	28	17	18	92
	女	2	1	3	5	3	7	11	9	10	51
	計	2	1	5	7	11	24	39	26	28	143
計	男	1	0	2	2	10	26	34	20	21	116
	女	3	1	5	5	5	15	15	11	14	74
総計		4	1	7	7	15	41	49	31	35	190

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	6	5	7	18	15	6	23	44	62(32.6)
S	5	1	6	12	20	7	16	43	55(28.9)
D	0	0	0	0	2	2	4	8	8(4.2)
T	3	2	1	6	7	3	5	15	21(11.1)
A	3	3	1	7	8	2	9	19	26(13.7)
C	0	0	3	3	5	0	9	14	17(8.9)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	1	1	0	0	0	0	1(0.5)
計	17	11	19	47	57	20	66	143	190

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	3	3	5	11	14	12	17	43	54(28.4)
11～20	7	7	9	23	19	3	24	46	69(36.3)
21～50	6	1	4	11	22	4	17	43	54(28.4)
51～	1	0	1	2	2	1	8	11	13(6.8)
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	11	19	47	57	20	66	143	190

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	31	97	128(67.4)
1	0	5	5(2.6)
2	15	36	51(26.8)
3	1	4	5(2.6)
4	0	0	0
5	0	1	1(0.5)
不明	0	0	0
計	47	143	190

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	7	18	25(19.5)
I sp	13	25	38(29.7)
I s	1	11	12(9.4)
II a	3	23	26(20.3)
II a+ II c	5	9	14(10.9)
II b	0	0	0
II c	2	6	8(6.3)
III	0	0	0
その他	0	3	3(2.3)
不明	0	2	2(1.6)
計	31	97	128

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	6	6	10	25	6	28	81(42.6)
sm	2	4	3	8	9	20	46(24.2)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	8	10	13	33	15	48	127(66.8)
mp	3	0	3	9	1	3	19(10.0)
ss	6	1	1	8	3	8	27(14.2)
se	0	0	2	7	0	4	13(6.8)
si	0	0	0	0	1	2	3(1.6)
不明	0	0	0	0	0	1	1(0.5)
計	17	11	19	57	20	66	190

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	6	8	14	37	11	41	117(61.6)
B	3	0	3	8	2	2	18(9.5)
C	4	1	0	4	2	9	20(10.5)
D	1	0	0	4	0	3	8(4.2)
不明	3	2	2	4	5	11	27(14.2)
計	17	11	19	57	20	66	190

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	14	10	13	32	13	36	118(62.1)
Mod	3	0	6	25	6	24	64(33.7)
Por	0	0	0	0	0	1	1(0.5)
Muc	0	0	0	0	0	1	1(0.5)
その他	0	1	0	0	0	4	5(2.6)
不明	0	0	0	0	1	0	1(0.5)
計	17	11	19	57	20	66	190

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	1	1	4	7	3	9	25(13.2)
内視鏡下手術	10	2	5	24	8	22	71(37.4)
内視鏡治療	6	8	10	26	9	33	92(48.4)
その他不明	0	0	0	0	0	2	2(1.1)
計	17	11	19	57	20	66	190

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40-70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10-13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14-と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成30年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

令和元年度は19市町村で実施し、対象者は207,056人（前年度207,065人）のうち受検者数は4,872人（前年度5,521人）で、受検率は2.4%（前年度2.7%）であった。要精検者数はHBs抗原陽性者46人0.9%（前年度1.1%）、HCV抗体陽性者6人0.1%（前年度0.3%）であった。要精検者のうち精密検査受診者は30人57.7%（前年度63.9%）と前年より6.2%減少した。精検受診者30人中肝臓がん0人であった（がん発見率0%）。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対する定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は18市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	対 象 者	受 診 者	受 診 率	定 期 検 査 結 果			
				慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎	2,024人	992人	49.0%	144人 (14.5%)	10人 (1.0%)	7人 (0.7%)	3人 (0.3%)
C型肝炎	719人	354人	49.2%	61人 (17.2%)	9人 (2.5%)	9人 (2.5%)	2人 (0.6%)

受診率は昨年より2%程度低下し50%を切った。

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から令和元年度の25年間を集計すると、受診者総数は170,801人、HBs抗原陽性者3,633人 陽性率2.13%、HCV抗体陽性者3,743人 陽性率2.19%であった。年齢別陽性率はB型は50-54歳をピークに山型を示し、C型は高齢になるほど陽性率が高かった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 令和元年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が7名であった。
- (2) 平成7年から開始した肝臓がん検診によって発見された肝臓がんは令和元年度までで31人で現在生存中の患者は5人であった。平成10年から開始した定期検査によって発見された肝臓がんは令和元年度までで185人で現在生存中の患者は59人である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

(1) 一次検診

年 度	受 検 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H29	5,670	70	1.2	16	0.3
H30	5,521	58	1.1	15	0.3
R 1	4,872	46	0.9	6	0.1

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

(2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H29	85	61	71.8	0	0.00
H30	72	46	63.9	1	0.02
R 1	52	30	57.7	0	0.00

※がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

(3) 年齢階級別受診状況

区 分	令和元年度			平成7～令和元年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	1,099	0.4	0.1	18,133	1.76	0.51
45～49歳	450	0.7	0.0	12,928	2.73	1.13
50～54歳	353	1.4	0.0	14,376	2.96	1.38
55～59歳	362	0.6	0.0	17,767	2.56	1.87
60～64歳	742	1.8	0.1	30,061	2.22	2.31
65～69歳	850	1.3	0.2	32,263	2.11	2.59
70～74歳	776	0.9	0.3	26,504	1.77	3.00
75～79歳	118	0.8	0.0	10,597	1.45	3.59
80歳以上	122	—	0.0	8,172	1.35	3.33
計	4,872	0.9	0.1	170,801	2.13	2.19

(2) 令和元年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢階級	一次検診受診者数 a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b + d) / a			f = (c + d) / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	423	676	421	673	1	3	1	0	0	0	0.2	0.4	0.4	0.2	0.0	0.1
45～49歳	190	260	190	257	0	3	0	0	0	0	0.0	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0
50～54歳	127	226	125	223	2	3	0	0	0	0	1.6	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0
55～59歳	155	207	153	207	2	0	0	0	0	0	1.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
60～64歳	364	378	355	373	8	5	1	0	0	0	2.2	1.3	1.8	0.3	0.0	0.1
65～69歳	474	376	463	374	9	2	2	0	0	0	1.9	0.5	1.3	0.4	0.0	0.2
70～74歳	423	353	419	348	3	4	1	1	0	0	0.7	1.1	0.9	0.2	0.3	0.3
75～79歳	63	55	62	55	1	0	0	0	0	0	1.6	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
80歳以上	49	73	49	73	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	2,268	2,604	2,237	2,583	26	20	5	1	0	0	1.1	0.8	0.9	0.2	0.0	0.1
合 計	4,872		4,820		46		6		0		0.9			0.1		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

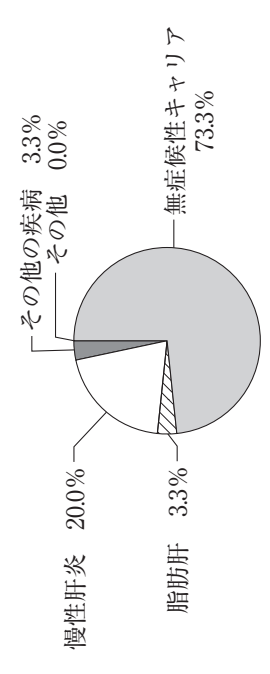
一次検診機関	一次検診 受診者数 a'		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e' = (b' + d')/a'			HCV抗体陽性率 (%) f' = (c' + d')/a'			
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		HBs・HCV ともに陽性 d'		男	女	計	男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							計
直 営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	639	920	631	912	5	8	3	0	0	0	0.8	0.9	0.8	0.5	0.0	0.2	
中国労働衛生協会	37	54	37	54	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
病 院	423	459	416	456	6	2	1	1	0	0	1.4	0.4	0.9	0.2	0.2	0.2	
診 療 所	1,169	1,171	1,153	1,161	15	10	1	0	0	0	1.3	0.9	1.1	0.1	0.0	0.0	
計	2,268	2,604	2,237	2,583	26	20	5	1	0	0	1.1	0.8	0.9	0.2	0.0	0.1	
合 計	4,872		4,820		46		6		0		0.9			0.1			

b. 精密検査結果

一次 検査機関	区分	精密検査者		精密検査結果												肝臓がん 発見率 h' = g'/a'					
		精受診者		健康指導対象者						診断結果						その他		男	女		
		男	女	無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん				その他の疾病	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
直営	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健事業団	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	3	5	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働 衛生協会	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	3	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	3	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療所	B型陽性	10	5	8	4	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	10	6	8	5	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	16	11	11	10	1	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	17	13	11	11	1	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	27	21	21	21	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	C型陽性	3	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	30	22	22	22	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



4) 令和元年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
実施市町村数=19

市町村名	対象者数 A	受診者数			陽性者数			精密検査結果別人員							がん発見率 (%) R = P/D			
		単検診 B	施設検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D/A	HBs抗原のみ陽性 F	HCV抗体のみ陽性 G	HBs抗原HCV抗体とも陽性 H	HBs抗原陽性率 (%) I = (F+H)/D	HCV抗体陽性率 (%) J = (G+H)/D	精受診者数 K	精受診率 (%) L = K/(F+G+H)	無症候性 キヤリア M	その他の 疾病 N		がん疑い O	がん P	有所見者 Q = N+O+P
鳥取市	63,853	548	1,046	1,594	2.5	14	2	0	0.9	0.1	12	75.0	7	5	0	0	5	0.000
米子市	64,638	0	1,117	1,117	1.7	13	0	0	1.2	0.0	8	61.5	7	1	0	0	1	0.000
倉吉市	16,989	46	347	393	2.3	5	0	0	1.3	0.0	2	40.0	2	0	0	0	0	0.000
境港市	11,206	127	218	345	3.1	1	1	0	0.3	0.3	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
岩美町	4,582	93	0	93	2.0	1	0	0	1.1	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	5,091	213	0	213	4.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
若桜町	1,478	17	11	28	1.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
智頭町	3,035	20	13	33	1.1	1	1	0	3.0	3.0	1	50.0	0	1	0	0	1	0.000
湯梨浜町	5,372	43	143	186	3.5	0	1	0	0.0	0.5	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000
三朝町	1,594	67	63	130	8.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	3,988	50	133	183	4.6	1	0	0	0.5	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
琴浦町	3,439	75	14	89	2.6	2	0	0	2.2	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,741	29	61	90	1.9	2	0	0	2.2	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
伯耆町	6,930	122	0	122	1.8	2	1	0	1.6	0.8	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	977	11	0	11	1.1	1	0	0	9.1	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	4,856	113	0	113	2.3	1	0	0	0.9	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000
日南町	1,410	13	22	35	2.5	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日野町	1,465	38	34	72	4.9	2	0	0	2.8	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000
江府町	1,412	25	0	25	1.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合計	207,056	1,650	3,222	4,872	2.4	46	6	0	0.9	0.1	30	57.7	22	8	0	0	8	0.000
東部	78,039	891	1,070	1,961	2.5	16	3	0	0.8	0.2	13	68.4	7	6	0	0	6	0.000
中部	31,382	281	700	981	3.1	8	1	0	0.8	0.1	4	44.4	3	1	0	0	1	0.000
西部	97,635	478	1,452	1,930	2.0	22	2	0	1.1	0.1	13	54.2	12	1	0	0	1	0.000

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(3) 平成7～令和元年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 令和元年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	定期検査結果															
	健康指導対象者					診断名										
	健康指導対象者 (令和元年4月1日現在の実人員)		受診者数 (令和2年10月31日現在の実人員)		無症候性ア	脂防肝	慢性肝炎	肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	20	44	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	42	55	8	4	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	31	65	2	9	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	52	109	11	27	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	104	167	24	39	3	2	8	14	3	0	0	0	1	0	0	0
65～69歳	147	212	46	86	1	6	8	14	0	1	0	0	0	0	1	1
70～74歳	170	216	63	112	1	3	12	18	1	0	0	0	3	1	0	0
75～79歳	121	140	63	105	1	3	17	7	0	1	0	0	1	1	2	0
80歳以上	97	232	49	130	0	2	17	16	3	1	0	0	1	0	4	0
計	784	1,240	269	513	11	16	66	78	7	3	1	2	1	3	4	1
合計 (比率%)	2,024	992 (100)	782 (78.8)	27 (2.7)	144 (14.1)	10 (1.0)	4 (0.4)	3 (0.3)	7 (0.7)	11 (1.1)	4 (0.4)	11 (1.1)	7 (0.7)	151 (42.7)	2 (0.6)	3

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 令和元年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果（年齢階級別）

年齢	定期検査結果															
	健康指導対象者					診断名										
	健康指導対象者 (令和元年4月1日現在の実人員)		受診者数 (令和2年10月31日現在の実人員)		無症候性ア	脂防肝	慢性肝炎	肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	7	9	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
50～54歳	7	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	11	20	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
60～64歳	26	32	5	11	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	7
65～69歳	38	44	10	12	3	1	1	3	1	0	0	0	0	0	4	5
70～74歳	41	65	22	39	2	6	2	6	0	1	0	0	1	2	15	22
75～79歳	24	85	21	57	6	14	0	8	0	1	0	0	1	0	12	30
80歳以上	67	224	57	112	25	33	1	33	2	4	0	0	1	5	14	32
計	225	494	119	235	37	56	4	9	52	3	6	0	1	7	2	6
合計 (比率%)	719	354 (100)	93 (26.3)	8 (2.3)	61 (17.2)	9 (2.5)	0 (0.0)	2 (0.6)	9 (2.5)	19 (5.4)	9 (2.5)	151 (42.7)	19 (5.4)	52 (14.5)	2 (0.6)	2

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～令和元年度肝臓がん検診結果（最終報告）

年齢階級	一次検診 受診者数 A		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 B		陽性率（%） C = B/A			陽性者数 D		陽性率（%） E = D/A		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	6,058	12,075	129	190	2.13	1.57	1.76	42	50	0.69	0.41	0.51
45～49歳	4,165	8,763	130	223	3.12	2.54	2.73	43	103	1.03	1.18	1.13
50～54歳	4,305	10,071	148	278	3.44	2.76	2.96	41	157	0.95	1.56	1.38
55～59歳	5,413	12,354	144	310	2.66	2.51	2.56	82	251	1.51	2.03	1.87
60～64歳	11,643	18,418	315	353	2.71	1.92	2.22	217	476	1.86	2.58	2.31
65～69歳	13,960	18,303	326	355	2.34	1.94	2.11	309	525	0.00	2.87	2.59
70～74歳	11,257	15,247	214	254	1.90	1.67	1.77	318	477	2.82	3.13	3.00
75～79歳	4,207	6,390	69	85	1.64	1.33	1.45	150	230	3.57	3.60	3.59
80歳以上	3,030	5,142	33	77	1.09	1.50	1.35	115	157	3.80	3.05	3.33
計	64,038	106,763	1,508	2,125	2.35	1.99	2.13	1,317	2,426	2.06	2.27	2.19
合計	170,801		3,633		2.13			3,743		2.19		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

- (1) 令和元年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い発見がんなし

(2) 令和元年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	市町村	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	生存	備考
1	80	男	鳥取市	肝臓がん	BSC		単発	S8	26×20	腫瘤	有	B	16.2	66	生存	HB+アルコール Pugh Cのため治療はされず 尾崎病院に転院 2019年11月8日診断
2	92	男	米子市	肝内石灰化のみ								B				
3	81	女	米子市	肝臓がん	肝切除	2018/10/16	単発	S5	30×23	腫瘤	無	B	3.1	34	生存	2018/6/19診断 前区域切除+S6亜区域切除 20201102再発なし
4	74	女	米子市	肝臓がん	TAE+RFA	2016/3/15	単発	S8	15×15	腫瘤	無	B	27.2	17	生存	20201022 再発なし
5	72	女	米子市	肝臓がん	肝切除	2019/5/10	単発	S3	25×25	腫瘤	無	B	6.1	68	生存	20190408診断 腹腔鏡下外側区域切除 20201029再発なし
6	86	男	八頭町	慢性肝障害								B				
7	64	女	琴浦町	異常なし								B				MRIにて血流障害
8	83	男	日野町	異常なし								B				MRIにて血流障害
9	81	男	鳥取市	肝臓がん	TACE	2016/7/12	多発	S8(S3)	15	腫瘤	有	C	7.0	172	生存	鳥大医受診歴無 鳥取赤十字病院にてTACE H28年7月
10	85	男	米子市	肝臓がん	TAE	2019/9/6	単発	S7	32×32	腫瘤	無	C	3.0	1581	生存	2019/7/5診断 20200902再発なし
11	86	女	米子市	肝臓がん	TAE	2019/7/25	単発	S4	38×28	腫瘤	有	C	53.1	32	死亡	肝臓破裂にてTACEにて止血 201909以後に死亡
12	80	女	八頭町	肝臓がん	RFA	2019/3/29	単発	S8	17×11	腫瘤		C	3.0	20	生存	20201008再発なし
13	98	女	八頭町	肝臓がん	BSC		多発	S8	30	腫瘤	無	C	4.0	535	生存	鳥取赤十字 202010HCC 多発転移 要確認
14	84	男	若桜町	肝臓がん		2020/11/10						C	2.7	195	生存	肝切除後時期不明 多発骨転移 放射線療法20201109
15	83	女	八頭町	肝臓がん	肝切除	2015/5/18	単発	S2	27×22	腫瘤	有	C	13.0	38	生存	術後 鳥取赤十字 満田先生に確認

(3) 平成10年度～平成30年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2021年3月現在
1	71	男	切除	95. 8.	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡	
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	有	C	再発、5年9か月後死亡	
4	63	男女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死	
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡	
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡	
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡	
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡	
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡	
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡	
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡	
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡	
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡	
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死	
15	74	男女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡	
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡	
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	4年5か月後死亡	
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死	
19	86	男女	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死	
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡	
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡	
22	67	男女	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発	
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡	
24	66	男女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中	
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死	
26	73	男女	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡	
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死	
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡	
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡	
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡	
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死	
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	再発、10年8か月後死亡	
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡	
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	再発、9年8か月後死亡	
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡	
36	80	男女	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡	
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡	
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡	
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡	
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡	
41	56	男女	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中	
42	78	男女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡	
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡	
44	68	男女	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡	
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡	
46	62	男女	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	有	C	再発、3年後死亡	
47	86	男女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡	
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡	
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	4年3か月後再発H28. 3. 3 S3部分切除 再発なし、生存	
50	64	男女	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡	
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡	
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	再発、3年10か月後死亡	
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡	
54	75	男女	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡	
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死	
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死	
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死	
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発 H28. 9. 26死亡	
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡	
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発 生存不明	
61	68	男	肝腫瘍		(単発)	S6	13×13	腫瘍	無	B	生存不明	
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡	
63	79	男女	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡	
64	87	男女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	再発、6年4か月後死亡	
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	再発、6年10か月後他病死	
66	82	男女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	再発、7年3か月後死亡	
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	H28. 5再発S5 43mm 治療希望されず 12年7か月後死亡、死亡原因不明	
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡	
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	有	C	再発、12年11か月後死亡	
70	80	男女	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡	
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡	
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発、13年5か月後死亡、肝開連死	
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡	
74	80	男	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡	
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	7年1か月後再発、2020/2 S6 8mm RFA	2020/2 S6 8mm RFA
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡	
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	再発、3年後死亡	
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	有	C	再発、8年10か月後死亡	
79	60	男女	RFA	07. 7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	3年4か月後再発。	生存、再発なし
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	有	C	2年7か月後他病死	
81	80	女	TAE	03. 3.	単発	S2/3	20×20	腫瘍	有	C	再発、8年7か月後死亡	

No	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考	2021年3月現在
82	77	女	TAE	08.10.7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡	
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	H29.3.22 S1 2.5cm 再発肝切除	生存、再発なし
84	77	女	TAE	09.3.24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死	
85	84	女	T/P	09.9.7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	2年1か月後肝不全死	
86	72	女	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3年2か月後死亡	
87	79	女	TAE	10.11.18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	4年1か月後再発	生存、再発なし
88	89	男	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍	有	C	3年9か月後死亡	
89	76	女	T/R	08.5.12	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	5年2か月後再発、9年8か月後死亡、他病死心不全	
90	76	女	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡	
91	79	男	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23	腫瘍	有	C	2年11ヶ月後他病死	
92	85	女	切除	10.3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡	
93	66	男	TAE	09.7.	>4個	S1		浸潤	無	B	1年10か月後死亡	
94	73	女	切除	09.10.20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中	生存、再発なし
95	68	女	切除	09.8.21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中	リスト外という意見有
96	75	男	TAE	08.1.	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5年3か月後死亡	
97	78	男	精査中							C		
98	75	男	TAE	07.2.11	単発	S6			無	B	再発、7年5か月後死亡	
99	66	男	TAE	11.1.20	2個	S5/6	12×12	腫瘍	有	C	H2811.11 HCC再発リンパ節転移 H29.7.10死亡	
100	80	女	RFA	10.11.09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3年8か月後再発	生存不明
101	64	女	TAE	10.11	単発	S6	5×5	腫瘍	有	C	再発、5年1か月後死亡	
102	75	女	切除	08.7.30					無	C	H27.1再発	
103	75	男	TAE	10.12.08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
104	69	女	RFA	10.4.	単発	S6	18×18		無	C	3年10か月後再発、8年1か月後死亡、肝臓死	
105	79	男	TAI	09.10.26	2個	S7/8	18×15	腫瘍	有	C	2年8か月後死亡	
106	71	女	切除	07.8.17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡	
107	85	女	RFA	10.7.	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	再発、5年4か月後他病死	
108	84	女	RFA	09.10.30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中	
109	65	男	T/R	10.3.	単発	S5	24×24	腫瘍	有	B	再発、4年11か月後死亡	
110	57	女	切除	11.1.18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中	
111	78	女	肝がん否定		単発	S5	5×5		有	C	5か月後腫瘍消失、他病死	
112	87	男	RFA	11.4.7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	死亡詳細不明	
113	67	男	肝がん否定							C		
114	77	女	RFA	11.7.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、3年8か月後死亡	
115	92	女	TAE	11.10.4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
116	78	女	T/R	10.3.24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9か月後再発	
117	76	男	切除	11.7.26	単発	S7	80×75	腫瘍	有	C	無再発 H24.6.24死亡	
118	75	男	RFA	11.7.	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3年2か月後再発	
119	84	男	転移性肝腫瘍(肺大細胞癌)							B	5か月後死亡	
120	75	男	RFA	13.10.2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	1年11か月後再発 H27.9 H27.12 H29.10再発しRFA施行	
121	75	男	切除	11.6.					有	B	4年0か月後他病死	
122	70	女	PEI	12.5.9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8か月後死亡	
123	83	男	TAE	11.8.30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2年7か月後再発 2015.7.2016.10再発にてRFA死亡他病死	
124	75	女	RFA	08.10.	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	2016.4再発 RFA	
125	80	女	TAE	12.11.20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	再発、1年11か月後死亡	
126	86	男	T/R	13.11.	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中	
127	78	女	RFA	12.3.1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	1年10か月後再発 H27.10 H28.5 TACE H29.1 RFA	
128	82	女	RFA	12.3.14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	2年10か月後死亡	
129	87	女	TAE	12.7.6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡	
130	85	女	RFA	12.2.13	単発	S5	10×17	腫瘍	有	C	再発、3年8か月後死亡	
131	76	女	TAE	12.6.20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	3年1か月後死亡	
132	81	女	TAE	10.11.10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2年6か月後死亡	
133	68	男	切除	13.5.20	単発	S5	35×38	腫瘍	無	B	2年9か月後死亡 死因不明	
134	60	女	TAE	13.8.26	単発	S3	18×15	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡、肝臓死	
135	70	女	RFA	14.4.	単発	S1	14×14	腫瘍	無	B	無再発生存中	
136	83	女	T/R	13.10.	単発	S7	26×26	腫瘍	無	C	再発、5年7か月後死亡	
137	88	男	TAE	13.10.31	>4個	S4278	34×34	腫瘍	有	C	1年後再発 肺転移 左副腎転移 肝内再発、3年2か月後死亡	
138	79	女	切除	13.3.	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	1年3か月後死亡	
139	73	男	T/R	13.7.2	>4個	両葉	24×24		無	C	1年8か月後死亡	
140	80	女	T/P	13.5.1	単発	S5	30×30	腫瘍	無	C	9か月後再発 7年4か月後死亡、心不全死、肝がん死を除く関連死	
141	94	男		12.8.6						C	2年4か月後死亡	
142	83	女	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	再発、7年後死亡	
143	67	男	切除	14.5.27	単発	S5	20×20	腫瘍	無	B	再発なし	2020/10/15 再発なし
144	66	女	T/R	14.9.10	単発	S3	25×25	腫瘍	有	B	2016.10再発 TACE	
145	73	男	T/R	14.4.16	2個	S45	10×17		無	B	再発、6年4か月後死亡、肝臓死	
146	77	女	TAE	12.10.17	2個	S6	7×14	腫瘍	有	C	3年2か月後死亡	
147	78	女	切除	15.12.17	単発	S5	15×15	腫瘍	有	C	再発無	生存、再発なし、胆管細胞癌
148	89	男								B	死亡	
149	85	男	TAE	15.11.13	単発	S8	32×28	腫瘍	無	B	生存不明	
150	74	男	T/R	15.9.7	単発	S4	24×22	腫瘍	無	B	再発なし	
151	76	女	TACE	17.8.2	>4	S5678	36×33	腫瘍	有	C	再発、1年1か月後死亡、肝臓死	
152	76	男	切除	16.3.16	単発	S8	23×20	腫瘍	有	NBNC	再発なし	生存、再発なし

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2021年3月現在
153	80	女	TAE・RFA	16.9.23	単発	S7	29×29	腫瘍	無	C			1年後再発 RFA施行	生存
154	90	女	RFA	13.5.	2個	S6 S8	14×13 11×10	腫瘍	無	C			4年4か月後 他病死 脳出血	
155	81	男	RFA	16.10.5	単発	S8	14×14	腫瘍	有	C			H29.8再発なし	生存、再発なし
156	79	女	RFA	16.6.15	単発	S6	7×8	腫瘍	有	C			SVR後発癌	
157	73	女	無治療	18.1.15	単発	S8	10×10	腫瘍	有	C			Pugh 10にて無治療を希望 9か月後死亡	
158	68	男	肝切除	17.10.20	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	6.8	26	再発、生存	
159	75	女	TAE+RFA	16.2.17	単発	S7	11	腫瘍	有	B	2.0	15	生存、再発なし	
160	77	女	TAE/RFA	17.4.1	2個	S2, S6	12, 19	腫瘍	有	C	46.0	20	再発、生存	
161	74	男	TAE+RFA	15.6.2	2個	S5 S7	14, 13	腫瘍	有	C	2.0	9	再発、生存	
162	85	男	RFA	14.2.18	単発	S4	15	腫瘍	有	C	2.0	12	再発、4年9か月後死亡	
163	82	男	TAE	17.5.10	4個以上	S4578	46	浸潤	有	C	446.0	346	2年1か月後死亡	
164	70	男	TAE	17.6.26	4個以上	S3S7	14×13	腫瘍	有	C	11.6	54	2年10か月後死亡	
165	70	男	RFA	14.8.15	単発	S6	20	腫瘍	有	C			生存、再発なし	
166	82	男	肝切除	10.7.15	単発	S5	13	腫瘍	有	C			再発、生存	
167	85	女	TAE	16.1.26	単発	S6	25×14	腫瘍	有	B	1.0		再発、生存	
168	88	女	無	19.1.21	単発	S4	41×43	腫瘍	有	B	688.9	54	1年間後死亡、肝癌死	
169	69	女	肝切除	19.2.25	不明	S7	30mm	腫瘍	有	B	2.1	11	生存、再発なし	
170	77	男	肝切除	19.6.11	単発	S2		腫瘍	有	B	2.0	3500	生存	
171	71	男	RFA	18.1.31	2個	S7	21×19	腫瘍	有	B	3.5	28	再発、生存	
172	74	女	TAE		3個	S358	10×10	腫瘍	有	C	1603.0	27	再発、生存	
173	97	女	無	19.3.22	2個	右葉	50	腫瘍	有	C	866.4		2か月後死亡	
174	85	男	無	18.5.9	2個	右葉	不明	腫瘍	不明	C	2966.0		2年5か月後死亡	
175	83	女	肝切除	19.5.8	単発	S4	14×11	腫瘍	無	C	3.5	17	生存、再発なし	

(4) 平成7年度～平成30年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	PIVKA	備考	2020調査
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C			再発、7年7か月後死亡	
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘍	有	C			再発、2年1か月後死亡	
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C			再発、15年1か月後死亡	
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘍	有	C			再発、3年9か月後死亡	
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	有	C			再発、1年8か月後死亡	
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘍	有	B			9か月後死亡	
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—			再発、1年1か月後死亡	
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C			再発、5年2か月後死亡	
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘍	有	C			再発、6年1か月後死亡	
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘍	有	C			3か月後死亡	
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C			再発、2年3か月後死亡	
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7,8	40×32	腫瘍	有	C			7か月後死亡	
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B			1年後死亡	
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	有	C			9か月後死亡	
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	有	B			4か月後死亡	
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘍	有	—			再発、1年5か月後死亡	
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘍	有	C			1年10か月後死亡	
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘍	有	C			再発、3年11か月後死亡	
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘍	有	C			再発、3年11か月死亡	
20	67	女	切除	06.8.9	単発	S8	25×25	腫瘍	有	B			無再発生存中	生存、再発なし
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C			3年後再発	生存不明
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘍	有	C			37日後死亡	
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C			2年6か月後死亡	
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり		腫瘍	有	B			10か月後死亡	
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘍	有	C			1年5か月後再発 2017.5.9死亡 肝がん死	生存不明
26	77	男	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘍	有	B			無再発生存中	生存不明
27	72	男	TAE	13.11.	>4個	S4	44×39	腫瘍	有	B			1年5か月後死亡	
28	74	女	TAE	15.3.26	2個	S45	72×72	腫瘍	有	C			死亡H27.4.27溺死	
29	86	女	緩和治療		>4個	S24578	68×60	腫瘍	有	C			死亡	
30	48	男	切除	16.7.13	単発	S7	23×19	腫瘍	無	C			2016.12動注 2017.3ネクサパール 2018/1/11生存	再発、生存
31	60	男	切除	19.8.6	2個	S4	25	腫瘍	無	B	11.8	16.0	再発、生存	

7. 全国がん検診実績との比較

平成30年度（※69歳以下の実績）

（単位：人 %）

区 分		平成30年度実績 (鳥取県)	平成30年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,825,703	○受診者・がん発見=(鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者=「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く(以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	26,222	1,697,734	
	受診率 (%)	34.1	3.3	
	要精検者数 (人)	466	103,503	
	要精検率 (%)	7.05	6.10	
	精検受診者数(人)	415	82,693	
	精検受診率 (%)	89.1	79.9	
	がんの者 (人)	58	1,240	
がん発見率 (%)	0.22	0.07		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	59,087	39,523,438	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(3,695,629) + (3,625,872) - (1,011,856)}{(39,523,438)} \times 100 = 16.0$ 鳥取 $\frac{(26,521) + (26,470) - (15,091)}{(59,087)} \times 100 = 64.1$
	受診者数 (人)	26,470	3,625,872	
	受診率 (%)	44.8(64.1)	(16.0)	
	要精検者数 (人)	518	82,821	
	要精検率 (%)	1.96	2.28	
	精検受診者数(人)	409	62,082	
	精検受診率 (%)	79.0	75.0	
	がんの者 (人)	8	1,031	
がん発見率 (%)	0.03	0.03		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,847,442	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値(「喀痰のみ」は除く)
	受診者数 (人)	25,673	3,685,801	
	受診率 (%)	33.4	7.1	
	要精検者数 (人)	762	60,122	
	要精検率 (%)	2.97	1.63	
	精検受診者数(人)	696	50,009	
	精検受診率 (%)	91.3	83.2	
	がんの者 (人)	9	1,123	
がん発見率 (%)	0.04	0.03		

区 分		平成30年度実績 (鳥取県)	平成30年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	44,660	25,896,306	○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,437,646) + (2,413,232) - (443,661)}{(25,896,306)} \times 100 = 17.0$ 鳥取 $\frac{(14,516) + (14,064) - (1,299)}{(44,660)} \times 100 = 61.1$
	受診者数 (人)	14,064	2,413,232	
	受診率 (%)	31.5(61.1)	(17.0)	
	要精検者数 (人)	931	157,548	
	要精検率 (%)	6.62	6.53	
	精検受診者数(人)	881	140,151	
	精検受診率 (%)	94.6	89.0	
	がんの者 (人)	45	7,240	
がん発見率 (%)	0.32	0.30		
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	76,814	51,845,061	
	受診者数 (人)	28,684	4,168,930	
	受診率 (%)	37.3	8.0	
	要精検者数 (人)	1,894	236,719	
	要精検率 (%)	6.60	5.68	
	精検受診者数(人)	1,453	166,303	
	精検受診率 (%)	76.7	70.3	
	がんの者 (人)	64	6,802	
がん発見率 (%)	0.22	0.16		

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定
精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」
- 3 平成25年度から全国数値は、69歳以下の実績が公表されていることから、鳥取県数値も69歳以下の実績で比較している。
- 4 平成27年度から「地域保健・健康増進事業報告」対象者数は、各がん検診の対象年齢の「全住民」を報告することとなった。
- 5 平成28年度から乳がん検診について対象者数は「視触診方式及びマンモグラフィの併用者」「マンモグラフィのみ」が統一された。

厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

令和元年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	27.8%		33.8%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.1%	○	6.5%	○	
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	86.4%	○	86.6%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.39%	○	0.23%	○	
陽性反応的中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	1.8%	○	0.8%		

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	28.9%		32.2%		
要精検率	許容値	3.0%以下	3.9%		3.1%		
精検受診率	許容値	70%以上	88.9%	○	88.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.07%	○	0.04%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.3%以上	1.8%	○	1.2%		

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	30.4%		36.3%		
要精検率	許容値	7.0%以下	9.0%		7.0%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	77.9%	○	77.9%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.33%	○	0.25%	○	
陽性反応的中度	許容値	1.9%以上	3.7%	○	3.6%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	24.9%		43.7%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.44%		1.72%		
精検受診率	許容値	70%以上	85.0%	○	85.2%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.02%		0.02%		
陽性反応的中度	許容値	4.0%以上	1.3%		0.9%		

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	16.7%		30.7%		
要精検率	許容値	11.0%以下	5.71%	○	6.21%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	94.3%	◎	94.9%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.38%	○	0.37%	○	
陽性反応的中度	許容値	2.5%以上	6.7%	○	6.0%	○	

※子宮がん、乳がんの受診率は単年度計算

Ⅲ. 令和2年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

令和2年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業名	開催日時	場	所	出席者	内	容
胃がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和3年2月27日(土) 午後4時～午後6時	米子市 米子市ふれあいの里		127名	演題：「胃がん内視鏡の最近の知見～上部消化器内視鏡のTips～」 講師：鳥取大学医学部附属病院先進内視鏡センター講師 吉田 亮先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 周藤紀之先生 八島一夫先生	
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	令和3年2月14日(日) 午後4時～ 午後5時40分	①メイン会場/鳥取県西部医師会館 ※サブ会場/Webにより映像配信 ②鳥取県健康会館(鳥取県医師会館) ③鳥取県中部医師会館		65名 内訳 ①34名 ②27名 ③4名	演題：「子宮頸がん検診Back to Basics」 講師：鳥取大学医学部附属病院女性診療科講師 大石徹郎先生 症例提示5例	
肺がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和3年2月20日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館(鳥取県医師会館)		75名	演題：「肺がん検診：読影のコツと最新動向」 講師：兵庫県立がんセンター放射線診断科部長 (講師の竹中先生には遠隔地からWeb「ZOOM」を使って、講演) 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—2例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 妻鹿倫征先生 大野貴志先生 高木雄三先生	
乳がん	乳がん検診従事者講習会及び第28回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	令和3年2月6日(土) 午後4時～ 午後5時40分	倉吉市 鳥取県保健事業団中部健康管理センター		27名	演題：「家族性腫瘍とゲノム医療について」 講師：鳥取大学研究推進機構 研究戦略室医学部附属病院 遺伝子診療科教授 難波栄二先生 症例検討 東部—2例：鳥取赤十字病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：鳥取大学医学部附属病院 山口由美先生 大田里香子先生 田中裕子先生	
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和3年1月23日(土) 午後4時～ 午後5時10分	鳥取市 鳥取県健康会館(鳥取県医師会館)		81名	演題：「便潜血検査による大腸がん検診の現状と今後の展望」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座消化器・腎臓内科学分野 准教授 八島一夫先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：博愛病院 森田照美先生 細田康平先生 濱本哲郎先生	
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	令和3年2月13日(土) 午後4時～ 午後5時45分	①メイン会場/鳥取県西部医師会館 ※サブ会場/Webにより映像配信 ②鳥取県健康会館(鳥取県医師会館) ③鳥取県中部医師会館		130名 内訳 ①61名 ②42名 ③27名	演題：「肝臓癌の現状と非B非C型肝炎肝細胞癌への対応」 講師：鳥取大学医学部統合内科医学講座消化器・腎臓内科学分野 講師 岡野淳一先生 症例検討 1例：山陰労災病院 前田直人先生	

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 令和3年2月27日(土) 午後4時～午後6時

場 所 米子市ふれあいの里

東・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 周 藤 紀 之

症 例：70歳代 女性

既往歴：特記事項なし HP除菌歴なし

検診歴：過去3年間(2012～2014年度)胃透視による検診を受け異常を指摘されていなかった。2015年の胃透視検診で胃体下部に不整なニツシェを指摘された。

経 過：上記精査目的に当院にて上部消化管内視鏡検査が施行され、胃体下部後壁に30mm大の2型腫瘍を認めた。潰瘍辺縁からの生検ではpor2を認めた。後日当院当院消化器外科にて幽門側胃切除術を施行された。

病 理：por2 non-solid、pT4a(SE)、INFc、ly0、v0、pPM0、pDM0、pN0、pstage IIB

考 察：後ろ向きに画像を見直すと2014年の胃透視検査では同部位にごく軽度の壁不整を認める。この症例は未分化な組織であり、その後急速に発育したものとする。日常診療では発見は困難と考えられるが、丁寧な読影の必要性を再認識した症例であった。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院消化器内科 八 島 一 夫

症 例：70歳代 男性

既往歴：高血圧、脳梗塞、4年前にピロリ菌除菌歴あり

検診歴：2018年度 施設内視鏡検診では、異常を指摘されなかった。

経 過：2019年10月の施設内視鏡検診で胃角小弯に粘膜不整あり、生検にてgroup5 (sig)であった。鳥取大学医学部附属病院受診となり、精査後、幽門側胃切除術が施行された。

病 理：L、Less、Type0-IIc like、35×35mm、por+sig、pT3(SS)、Stage IIB(T3N1M0)

考 察：前年度画像の見直しでは、胃角部小弯に潰瘍瘢痕様所見を認めたが、指摘されていなかった。この症例は、除菌後であり背景粘膜に光沢があり、かつ未分化な組織であり病変部の変化が乏しく、潰瘍瘢痕と判断されたと考える。よく観察すると軽度表面凹凸、発赤、反射光の変化を認める。除菌後胃癌の発見は難しい場合があるが、詳細な観察を心掛け、重要な異常所見を拾い上げることが大切である。

2. 子宮がん検診症例研究会

日時 令和3年2月14日（日） 午後4時～午後6時

場所 ①メイン会場/鳥取県西部医師会館

※サブ会場/Webにより映像配信

②鳥取県健康会館（鳥取県医師会館） ③鳥取県中部医師会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科 佐藤慎也講師の進行により、施設検診5例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科 工藤明子助教より下記の5症例が提示された。

症例1は平成27年度妊娠初期検査でNILM、5年間未受診の40代女性。令和元年度検診でHSILの判定となり、生検による組織診断は扁平上皮癌であった（子宮頸癌IIB期）。

症例2は経年受診の70代女性。検診の結果はAGCであり、子宮頸癌IB1期の術前診断で手術となり、最終的に子宮体癌II期と診断された。

症例3は平成28年度検診でNILMであった50代女性。2年間の未受診後、令和元年度検診で内膜細胞診陽性となり、子宮体癌IA期（類内膜癌G1）と診断された。

症例4は1-2年おきに受診の40代女性。平成30年度まではNILM、令和元年度の検診でSCC、子宮頸部円錐切除術によりCIN3/HSILと診断された。

症例5は平成22年度より細胞診異常を指摘されるも、精密検査後に経過観察受診の自己中断を繰り返していた50代女性。平成22年度にLSIL/AGC、5年間未受診後、平成28年度にASC-H、再度2年間未受診となり、令和元年度にAdenocarcinomaであった。子宮頸部円錐切除術を施行され、CIN3/HSILと診断された。

検診未受診者に対する受診勧奨と適切な検診受診間隔の重要性が再認識された。要精検者の精密検査あるいは経過観察では遅滞のない受診が必要である。経過観察を自己中断する症例に対してはより積極的な受診勧奨が望まれる。

令和2年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果		精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
					頸部	体部		組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	40歳	鳥取市	2020. 2. 21	鳥取産院	HSIL		鳥取県立中央病院	非角化型扁平上皮癌	II B	T2bN0M0	鳥取県立中央病院 鳥取市立病院
症例2	73歳	倉吉市	2020. 1. 24	レディースクリニックひまわり小産婦人科	AGC		鳥取県立厚生病院	漿液性癌（体部）	II	T2bN0M0	鳥取県立厚生病院
			2019. 2. 8	レディースクリニックひまわり小産婦人科	NILM						
			2018. 2. 16	レディースクリニックひまわり小産婦人科	NILM						
			2017. 2. 17	レディースクリニックひまわり小産婦人科	NILM						
			2015. 12. 15	レディースクリニックひまわり小産婦人科	NILM						
症例3	57歳	米子市	2019. 12. 4	井田レディースクリニック	NILM	陽性	鳥取大学医学部附属病院	類内膜癌 GI	I A	T1aN0M0 pT1aNxM0	鳥取大学医学部附属病院
			2016. 11. 4	井田レディースクリニック	NILM						
症例4	43歳	鳥取市	2019. 7. 6	さくらレディースクリニック田園町	SCC	陰性	さくらレディースクリニック田園町	CIN3			杏雲堂病院（東京）にて円錐切除
			2017. 8. 9	鳥取北クリニック	NILM						
			2015. 7. 6	鳥取北クリニック	NILM						
症例5	50歳	米子市	2019. 8. 19	中曽産婦人科医院	Adeno ca.		鳥取大学医学部附属病院 博愛病院	CIN3 NILM（月経中）HPV 陽性			博愛病院（経過観察3ヵ月後）しかし、受診なし
			2016. 12. 2	博愛病院	ASC-H						

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 令和3年2月20日(土) 午後4時~午後5時40分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 妻 鹿 倫 征

症 例：64歳 男性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：毎年検診で胸部X線検査は受けていたが異常の指摘はなかった。2020年6月に保健事業団で実施された検診胸部X線で異常を指摘された。精査目的に2020年9月に当院受診となった。

既往歴：円形脱毛症、B型肝炎

生活歴：喫煙歴20本/日×45年、飲酒歴ビール1本と焼酎ロック1杯/日、職業は船員、アスベスト・粉塵曝露歴なし

臨床経過：胸部X線では、左肺尖の鎖骨の裏に20mm大の結節影を認めた。胸部単純CTでは、左肺尖に25×23×24mm大のspiculaを伴った不整形結節を認めた。気管支鏡下肺生検で肺腺癌と診断し、左上葉切除+ND2a-2リンパ節郭清を施行した。病理所見によりAdenocarcinoma (solid 90% > papillary~acinar 10%)、病変全体径2.7cm、浸潤径2.0cm、pT2a、pN0、cM0、G3>1-2、R0、Stage IBの診断となった。

現在、外来にて術後補助化学療法を継続されている。

考 察：本症例は胸部X線の読影の際に見落としやすい肺尖に発生した肺腺癌であった。肺尖は鎖骨、胸鎖関節、第一肋骨、胸鎖乳突筋の一部が存在し、肺野の異常影を指摘しにくい部位である。左右の肺尖の見え方に左右差があり、過去の胸部X線と比較して左肺尖の結節影が明瞭化していたため、見逃してはならない症例であったと考えられる。早期発見・早期治療のため毎年検診を受診すべきであり、読影者も修練を積んで胸部X線読影能力を磨いていく必要があると感じた症例であった。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 大 野 貴 志

検診発見肺癌の2例

鳥取県立厚生病院 胸部外科¹⁾、呼吸器内科²⁾

大野貴志¹⁾、吹野俊介¹⁾、児玉渉¹⁾、北谷新²⁾

症例1：60歳代 女性

現病歴：2012年~2016年、2018年の検診では異常を指摘されなかった。2019年、検診胸部レントゲン異常影(E1)を指摘され当院受診された。

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙なし

臨床経過：CTでは左S⁸に1.8cm大の結節影を認めた。レントゲンを後方視的にみると2018年には左下肺野に結節影を認めたが、乳頭とも重なり、比較がなければ指摘困難であった。気管支鏡などを行い、左下葉肺腺癌、c-T1bN0M0、c-stage IA2と診断し、胸腔鏡下左下葉切除術+ND2a-2を行った。術後経過良好で術後4日目に退院となった。最終診断もp-T1bN0M0、p-stage IA2であった。

症例2：70歳代 女性

現病歴：2016年~2018年の検診では異常を指摘されなかった。2019年の検診では要観察(精査不要)

と判断された。2020年、検診胸部レントゲン異常影（E1）を指摘され当院受診された。

既往歴：骨粗鬆症、高脂血症

生活歴：喫煙なし

臨床経過：CTでは右S¹に2.3cm大の結節影を認めた。レントゲンを後方視的にみると2016年には右鎖骨に重なる位置に結節影を認めたが大きさには変化がなかった。気管支鏡などを行い、右上葉肺腺癌、c-T1cN0M0、c-stage IA3と診断し、胸腔鏡下右上葉切除術+ND2a-1を行った。術後経過良好で術後5日目に退院となった。最終診断もp-T1cN0M0、p-stage IA3であった。

考 察：症例1では正常構造物である乳頭とも重なり、比較がなければ指摘困難であったが、比較読影に回っていなかった。一次読影の際に肺癌が完全には否定できないと考え、仮判定をd・eとしていれば、比較読影で徐々に増大する結節を指摘できたかもしれない。

症例2は、2019年に精査不要となっているが、判定区分Cの定義として「前年判定区分D、Eとされた例で、精密検査などにより問題ないとされ、かつ、当該年度に悪化を示唆する所見が認められなかったものについて、判定区分Cに含める」という記載があり、前年に精査されているかを確認し、前年が異常なしと判定されていることがわかれば、2019年には診断がついていたかもしれない。

結 語：肺癌の可能性が否定できない場合、比較読影を行うことが重要であると考えられる。また比較読影で変化がない場合でも、過去に精査を行っているかを調べて、行っていない場合、要精査にすべきである。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 高 木 雄 三

症 例：60歳代 女性

現病歴：毎年検診を受けていたが、2019年に初めて胸部レントゲン異常を指摘された。自己判断で精査を受けず様子を見ていたが、2020年の検診で再度異常を指摘された。

既往歴：記事項なし

生活歴：喫煙歴なし

臨床経過：CTにて右下葉に2.5cm大の不整形充実性結節を認め気管支鏡下生検にて腺癌と診断された。PETではSUV max 11.46の高集積を認めたが肺門縦隔リンパ節や遠隔臓器への集積は認められなかった。ロボット支援下右肺下葉切除+ND2a-2を施行した。下記のごとく、胸膜浸潤を認めたためStage IBの診断となり、術後補助療法としてUFT内服中である。

【病理組織診断結果】

Invasive adenocarcinoma、acinar predominant (75%)、solid (20%)、papillary (4%)、lepidic (1%)

pT2a (2.5×1.9×1.7cm、inv 2.5cm)、p11、G2、Ly0、V0、PLC(-)、pm0

pN0(0/29) [#2R(0/9)、#4R(0/3)、#7(0/4)、#9(0/3)、#10R(0/1)、#11s(0/2)、#11i(0/1)、#12l(0/1)、#13(0/3)、#14(0/2)]

考 察：過去の写真を振り返ると、同部には2015年ごろから索状影が認められており、2019年には一部充実性の小結節が出現した。腫瘍は直近1年で急速に増大しており2019年の検診要精査は適切なタイミングであったと考えられる。要精査となった場合、精密検査を受診したか追跡するシステムは整っているが、自己判断で受診をされなかった場合に再度受診を促すシステムの構築も重要であると考えられる。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 令和3年2月6日(土) 午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県保健事業団中部健康管理センター

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由美

「中間期乳がんの2症例」

症例1：52歳 女性

主 訴：右乳房の硬結、痛み

病 歴：X-1年7月、X年7月に乳癌検診を受診し、異常を指摘されず。X年12月右乳房の硬結と痛みを主訴に来院。

画像所見・治療経過：MMGで右乳房U-Oに粗大な石灰化を伴う腫瘤様陰影の出現あり。USでは15×14×9mm大の分葉形腫瘤を認めた。MRIでも同様の腫瘤を認め、CTでは腋窩リンパ節腫大や遠隔転移の所見は認めなかった。生検で浸潤性乳管癌ER(-)PgR(-)HER2(-)と診断。Triple negative乳癌の診断で術前化学療法としてdose dense EC+nab-paclitaxelを施行した。化学療法後は画像上CRと判断。Bt(SSM)+SNを施行した。術後の病理検査で癌は完全消失し、組織学的治療効果はGrade3(完全奏効)であった。

症例2：62歳 女性

主 訴：左乳房の発赤、広範囲の硬さ

病 歴：検診は経年受診の患者であり、初診の22か月前に検診受診あり。左乳房の発赤と広範囲の硬結を自覚して外来を受診した。

画像所見・治療経過：MMGで左乳房に多型性、分枝状の石灰化が区域性に出現していた。乳腺後隙の間質陰影の増強、梁柱の肥厚を認め、カテゴリー5と診断。USは皮下組織の浮腫状の肥厚とA～C領域の不均一な低エコー像を認めた。MRIでは皮膚の肥厚と左乳腺AC領域の不均一な造影効果、乳腺組織の腫大を認めた。CTでは腋窩リンパ節の転移所見を認めた。生検で浸潤性乳管癌ER(-)PgR(-)HER2(3+)と診断。HER2陽性炎症性乳癌の診断で術前化学療法としてdocetaxel+Trastuzumab+Pertuzumabを6コース施行した。化学療法後は画像上CRと判断。Bt(SSM)+Ax(II)を施行した。術後の病理検査では癌は完全消失し、組織学的治療効果はGrade3(完全奏効)であった。術後PMRTおよびEC療法3コース、分子標的薬を計1年施行した。

これら2症例は経年受診者の中間期乳癌として発見された。経年受診者においても増殖能の高い乳癌では、進行癌で発見されることもある。検診の受診勧奨のみならず、自分の乳房を知るという「breast awareness」を住民に啓発していくことが大切であると考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 大田 里香子

「検診発見乳がんの1症例」

鳥取県立厚生病院 胸部外科¹⁾、血管外科²⁾

大田里香子¹⁾、吹野俊介¹⁾、大野貴志¹⁾、兒玉渉¹⁾、西村謙吾²⁾、浜崎尚文²⁾

症 例：70歳代 女性

主 訴：なし(検診マンモグラフィ異常影)

現病歴：2018年検診では異常指摘なし。2020年検診で左M腫瘤性病変カテゴリー3の指摘あり当科

受診した。

既往歴：既往歴に2型糖尿病（HbA1c 8.3%）、高血圧。

家族歴：特記なし。

所見：(MMG) 左MO辺縁一部微細鋸歯状腫瘤、カテゴリ4。(視触診) 左CDに1.5cm大腫瘤、左腋窩および鎖骨上窩に硬い腫大リンパ節を触知。(US) 左Cに13mm大境界一部不明瞭不整形腫瘤、左Dに12mm大境界明瞭楕円形腫瘤を認めた。左腋窩に24mm大リンパ節、左鎖骨上窩に20mm大リンパ節を認めた。(乳房造影MRI) 左Cに10mm大、左Dに14mm大造影結節。(造影CT) 左C、Dに造影結節、左腋窩・鎖骨下・鎖骨上窩に腫大リンパ節。(CNB) 浸潤性乳管癌、腺管形成型、左D腫瘤には粘液癌成分混在。ER+、PgR+、HER2 3+、ki-67 14.3%。(リンパ節FNA) 左腋窩、左鎖骨上LNともに悪性、乳癌転移。

診断：左乳癌 (C、D) cT1cN3cM0 c-stage IIIc

治療方針：EC→HER+PER+PTX、手術、放射線治療、薬物療法（抗HER2、ホルモン療法）

経過：EC2クールでリンパ節及び乳房腫瘍の明らかな縮小を認めている。

考察：過去の検診MMGを見返すと、2018年（2015年との比較あり）に左Mに構築の乱れやFADを指摘すべきであったと考えられた。

まとめ：乳房の腫瘍径は比較的小さく自覚症状はないが、検診発見の局所進行乳癌であった。比較読影が重要であると考えられた。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 田中裕子

症例：60歳代、女性、閉経後

主訴：なし（乳癌検診マンモグラフィー異常影）

経過：2018年2月、乳癌検診MMGで石灰化カテゴリ3の為、要精査となり3月当科初診。

2018年3月MMG：右M・O領域 淡く不明瞭な石灰化、線状配列 →カテゴリ4

2019年5月MMG：右M・O領域 淡く不明瞭な石灰化（増加）、線状配列 →カテゴリ4
4右M/O・I領域 淡く不明瞭な石灰化（新規出現）、集簇性 →カテゴリ3

FNA（右CD境界部低エコー腫瘤）：invasive ductal carcinoma

CNB（右CD境界部低エコー腫瘤）：悪性所見なし

VAB（右CD境界部低エコー腫瘤）：ductal carcinoma

乳房MRI：右D区域 明らかな腫瘤は認めないが広範囲な造影効果を認めた。

⇒MMGで石灰化病変を経年的に追う事で早期に乳癌の診断に至った。

術前診断：右乳癌（D区域）cTisN0M0、stage 0

2019年7月、右乳房全切除術+センチネルリンパ節生検

術後診断：右乳癌（D区域）pT1miN0M0、stage IA、luminal type術後治療としてAI剤を内服中。

まとめ：乳癌検診マンモグラフィーで石灰化を認めた場合は、悪性の可能性も考慮し経年変化を追う必要があると考える。本症例は、定期的なフォローにより石灰化数の増加や新規石灰化の出現に気付け、なおかつ低エコー腫瘤が出現した事で組織診断が実施でき、早期に乳癌の診断がついた。病変が小さい場合や、石灰化病変だけの場合にはCNBよりも組織採取量の多いVABを用いる事で確定診断の精度が上がると考える。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 令和3年1月23日(土) 午後4時～午後5時10分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取生協病院 森 田 照 美

症 例：70歳代 男性

主 訴：便潜血陽性

既往歴：高血圧症、脂質異常症、脂肪肝

現病歴：大腸がん検診にて便潜血陽性を指摘され、2019年8月当院を受診(初診)した。

検査・治療経過：2019年8月下旬消化管内視鏡検査を施行した。直腸S状部(RS)に15mm大のIs病変を認めた。頂部に陥凹面を有し、周辺に顆粒状変化を伴っていた。NBI拡大観察ではJNET分類Type 2Aが主体だが、陥凹部はType 2Bと考えられた。クリスタルバイオレット染色では辺縁部はIV型pitだが、陥凹部ではVI軽度不整と判断した。これらの所見からcarcinoma in adenomaを疑い、同年9月ESDを施行した。

病理診断：直腸Rs、type0-Is、15×15mm、tubular adenocarcinoma (tub2)、pM、ly0、v0、pN0、pHM0、pVM0、cM0、fStage I

検 討：治療前のNBI拡大観察や色素拡大観察のpit patternでは陥凹部で癌を疑った。SM浸潤癌を疑い脈管侵襲の正確な評価が必要と考え、ESDにて可能な限り筋層近傍での剥離を行うよう工夫した症例であった。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 細 田 康 平

症 例：49歳 男性

主 訴：便潜血陽性

現病歴：毎年大腸癌検診を受けているが、2020年8月5日検診で便潜血陽性(-/+)を指摘され、当院を受診した。8月28日下部消化管内視鏡検査にて上行結腸に腫瘍を認めた。

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙5本/日×20年 48歳から禁煙、飲酒 ビール・焼酎 2合/日

常用薬：なし

内視鏡所見：バウヒン弁対側の上行結腸に約30mm大のLST病変を認めた。NBI観察では腫瘍の上側はJNET分類type 2Aであり、腺腫性病変が主であると判断したが、病変の下側はわずかに陥凹面があり、腺管構造・血管構造の不整を疑った。早期大腸癌と考え、後日ESDにて一括切除を行った。切除病変は25×25mmであった。

病理結果：Cancer in adenoma (adenocarcinoma、tub2 in tubulovillous adenoma) pT1b (1.5mm)、Ly0、V0、pHM0、pVM0 pStage I

検 討：LST病変は、その形態分類によって担癌率が異なり、顆粒型は粗大結節や陥凹の有無などが、SM深部浸潤を疑う要因とされている。今回の症例においても腺管構造・血管構造の不整を伴う陥凹面があり、腺癌の合併が疑われた。内視鏡検査時には腫瘍全体の形態を注意深く観察し、形態の評価としてインジゴカルミン散布も有用である。

〔西部症例〕

提出者：博愛病院 濱 本 哲 郎

症 例：71歳 男性

主 訴：腹痛

既往歴：左被殻出血、高血圧、高尿酸血症

家族歴：特記事項なし

現病歴：半年前に大腸癌検診を受けて便潜血が陽性であったため近医で全大腸内視鏡検査（回腸末端まで観察）を施行されたが、横行結腸の小ポリープを認めるのみだった。今回、10日前から持続する腹痛を主訴に近医を受診し、CTで回盲部の腸重積が疑われた。保存的に経過観察されていたが腹痛が改善しないため、2週間後に当院に紹介となった。

腹部CT検査：回盲部近傍に5 cm大の腫瘤を認め、腸重積傾向と考えられた。

大腸内視鏡検査：回盲弁近傍に1型の巨大な腫瘤を認め、同部から生検を施行した。

生検組織の病理所見：N/C比の高い細胞が増生しており、免疫染色ではCD20陽性、CD3陰性、CD5陰性、CD10陽性、Cytokeratin AE1/AE3陰性、MIB-1 index：80%で、悪性リンパ腫（diffuse large B-cell lymphoma）と診断した。

臨床経過：化学療法の適応と考えられたが、腸重積を反復していて腹痛も強いため、回盲部腫瘤の外科的切除を行った後に化学療法を追加する方針とした。

手術所見：回盲部に手拳大の腫瘤を蝕知し、重積状態であった。回盲部切除術を施行し、回腸末端部に7.8×6.8cm大の凹凸不整な腫瘤を確認した。

切除標本の病理所見：肉眼的腫瘤に一致して、大型で多型性を示すリンパ球の充実性増殖が見られ、免疫染色では大型リンパ球はCD79a、bcl-2に陽性、CD20およびCD30に部分陽性を示し、CD3、CD10、CD15は陰性、MIB-1 LI>80%で、diffuse large B cell lymphomaの所見であった。

検 討：大腸がん検診で便潜血が陽性であったために行った全大腸内視鏡検査では小ポリープのみであったにもかかわらず、半年後に腸重積を来した回腸悪性リンパ腫の1例を経験した。半年前の大腸検査で異常が無くても、新たに自覚症状が出現した際には、再度精査は必要と考えられた。同様に、半年前の大腸検査で異常が無くても、大腸がん検診（便潜血検査）が陽性であれば精査が必要な場合もあるものと思われる。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和3年2月13日(土) 午後4時～午後5時45分

場 所 鳥取県健康会館

[西部症例]

提出者：山陰労災病院 前田直人

はじめに：腹部大動脈瘤と消化器悪性腫瘍との合併においては、その治療方針を決定する場合に、治療の優先順位や治療侵襲とリスクとのかねあいなど様々な問題が発生しうる。今回、治療適応のある腹部大動脈瘤を合併した巨大肝細胞癌の一例を経験したので報告する。

症 例：70歳代後半、男性。

主 訴：なし（肝腫瘍、腹部大動脈瘤の精査加療）

現病歴：C型肝炎、高血圧などにて近医、脳出血後遺症にて他病院でfollowされていた。20××/10転倒して同院搬送、胸腹部CTにて巨大肝腫瘍および腹部大動脈瘤を指摘され、精査加療目的で当院紹介となった。食欲良好、腹部自覚症状なし。60歳代以降禁酒禁煙。

既往歴：20歳代交通事故で脾摘、輸血後肝炎。60歳代脳出血、左半身麻痺。

現 症：身長164cm、体重57kg。血圧139/85mmHg、脈拍72/分。PS：0～1。腹部は平坦、軟、圧痛なし。肝は触知せず。

来院時血液所見：WBC 5700/ μ L、Hb 12.4g/dL、PLT 37.6 $\times 10^4$ / μ L、PT 112%、Alb 3.8g/dL、T-Bil 0.5mg/dL、AST 62IU/L、ALT 81IU/L、LDH 207IU/L、ALP 665IU/L、 γ GTP 45IU/L、Glu 104mg/dL、BUN 22.0mg/dL、Cr 1.14mg/dL、CRP 0.04mg/dL、HBsAb(+)、HCVAb(+)、HCV RNA 4.5/Taq、AFP 23ng/ml、PIVKA-II 15670mAU/ml

腹部dynCT：肝右葉を占拠する ϕ 105mmのHCCと周囲の娘結節を多数認めた。脾摘後。胆道系、膵、腎、腸管には特記すべき異常なし。 ϕ 50mmに拡張した腹部大動脈瘤を認めた。

入院後の経過：脳出血後遺症として左半身麻痺および難聴あるも、栄養状態は良好、ADL自立。腹部自覚症状なし。肝予備能良好であった。切迫破裂の疑われる巨大肝細胞癌および待機的外科手術適応のある ϕ 5cmの腹部大動脈瘤に対し、心血管外科および放射線科相談のうえで、肝細胞癌の破裂予防およびmass reductionの目的で肝動脈塞栓療法（TACE）を先行した。

第1病日 車椅子にて入院、腹部自覚症状なし。BP：119/88mmHg。

第2病日 午前DEB-TACE施行、DCビーズ+Epi+希釈造影剤50mlを後区域25ml、前区域25ml動注した。TACE後、腫瘍血流は低下した。術後に軽度の腹痛訴えあり。補液持続。夕方BP 124/94mmHg、尿量約1000ml。

第3病日 表情やや苦悶様で活気なし。食欲なし。終日腹部に圧痛あり、腸蠕動は良好。尿量約500ml+300ml（導尿）。補液持続。

15：00 座位ややおぼつかず、車椅子移乗に要介助。ぐったり感あり、腹部に緊満感はなし。BP：117/91mmHg。

20：50 眠前薬内服。問いかけに頷きあり。

23：05 Ns定時訪室時、呼吸停止、心拍動微弱。心マッサージ、アドレナリン注等にてCPR試みるも反応なし。

翌00：05 死亡確認。

死因解明のため家族から死亡時画像診断（Autopsy imaging; Ai）の同意を得た。病理解

剖は希望されず。

死亡時画像診断 (Ai)：肝内の低吸収域には微細なガス像あり、TACE後の変化と考えられた。腹部大動脈は虚脱し、初診時にみられる大動脈瘤も縮小、周囲に高吸収を示す軟部影が後腹膜腔に広がっていた。動脈瘤破裂を示す所見であり、直接死因は動脈瘤破裂によるショック死と考えられた。

考察 (反省)：本例のHCCに対するサーベイランスについては、C型肝炎、HBV既感染、高齢、男性、糖尿病であり、HCC高危険群であったが、これまで画像でのfollowがなかった。C型肝炎に対する定期画像followがあれば動脈瘤発見の可能性もあったかもしれない。一方、本例の治療方針として、動脈瘤はφ5 cmであり待期的手術の適応ではあったが、肝細胞癌破裂の危険性および両者の治療期間を考慮してTACEを優先した。動脈瘤の拡大速度などの情報はなかった。また、本例の動脈瘤破裂については、激しい痛みの訴えがなく、腹痛はTACE後の疼痛と考え動脈瘤の切迫破裂とは考えなかった。

結 語：治療適応のある腹部大動脈瘤を合併した巨大肝細胞癌の一例を経験したので報告した。本例では、それぞれの破裂の可能性と治療期間を考慮したうえで肝細胞癌に対してのTACEを先行施行したが、TACE後に大動脈瘤破裂をきたし死亡した。治療適応のある大動脈瘤を合併した消化器癌では、治療方針の決定には家族への説明も含めて十分に慎重であるべきと考えられた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	2	4	106	0	0	0	6	80	305	8	84	411
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	2	6	90	8	66	85	2	9	37	12	81	212
乳 がん	1	1	69	1	4	4	1	10	15	3	15	88
大腸がん	2	4	119	0	0	0	2	9	85	4	13	204
肝臓がん	0	0	0	0	0	0	3	6	210	3	6	210
合 計	7回			9回			14回			30回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	令和3. 4. 1～令和4. 3. 31 (2021. 4. 1～2022. 3. 31)	令和3年度中
肺がん一次検診医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
子宮がん検診精密検査	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31 (2021. 4. 1～2024. 3. 31)	令和5年度中	令和3. 4. 1～令和6. 3. 31
肺がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
乳がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
大腸がん検診精密検査	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31 (2020. 4. 1～2023. 3. 31)	令和4年度中	令和2. 4. 1～令和5. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31 (2019. 4. 1～2022. 3. 31)	令和3年度中	平成31. 4. 1～令和4. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準（平成30年度より改正）

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 4回/年 西部 1回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 5回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

※胃内視鏡検診マニュアルに従い、精密検査医療機関の登録基準の臨床例数は原則年間100症例以上に変更することとなり、平成30年度より「胃がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

「年間の症例数」について、医師個人とするか医療機関とするかについては、協議の結果、医師の習熟度の目安となるので「医師個人で原則年間100例以上」とすることとなりました。次回の更新3年後に向けて努力目標としていただくこととなりました。

また、登録基準においては、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間100例以上あること。ただし、部会等の長及び地区医師会の代表の委員が十分な実績があると認める機関については、この限りではない。」としており、100例を満たさない医師については、健対協が十分な実績があると認めれば登録されます。

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年度より改正）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつ気管支ファイバー下病理検査が可能であること。
ただし、他施設に委託することも可能であること。
- 3 CT読影を含む精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会
10点（過去3年間に1回は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん医療機関検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会・肺がん検診症例検討会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 4回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 4回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 5回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器がん検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準（平成31年3月改正）

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準に合う超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師の対応ができること。
 - (1) 走査法は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。（※携帯型超音波装置は除く。）

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査について、次のいずれかを満たしていること。
 - (1) 臨床例が年間100例以上あること。
 - (2) 最近5年間で300件以上の検査の実績があること。
 - (3) 検者が、超音波医学会認定超音波専門医（腹部または総合）又は超音波医学会認定超音波検査士（腹部）であること。
 - (4) 部会等の長及び地区医師会の代表の委員が、十分な実績があると認める機関については、この限りでない。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 5回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 3回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 1回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝癌治療研究会	全県 1回/年	3点

（鳥根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

※登録基準の「腹部超音波検査の年間症例数」の取り扱いが変更することとなり、平成31年3月に「肝臓がん検診精密検査医療機関実施要綱」が一部改正しました。

あ と が き

がん登録推進法が施行されがん登録の利活用が始まりました。鳥取県がん対策推進県民会議に「鳥取県がん登録情報提供審査会部会」が設置され、情報提供に関する審査を行っております。トップを切って「鳥取県の全国がん登録とKDBデータの連結データをがんの疫学研究に用いることの有用性に関する研究」が開始されました。鳥取県におけるがん対策の施策に活かされることが期待されます。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第27報です。この報告書は単年度のがん検診の全体像も一覽いただけるものと考えます。がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知おき下さい。編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫